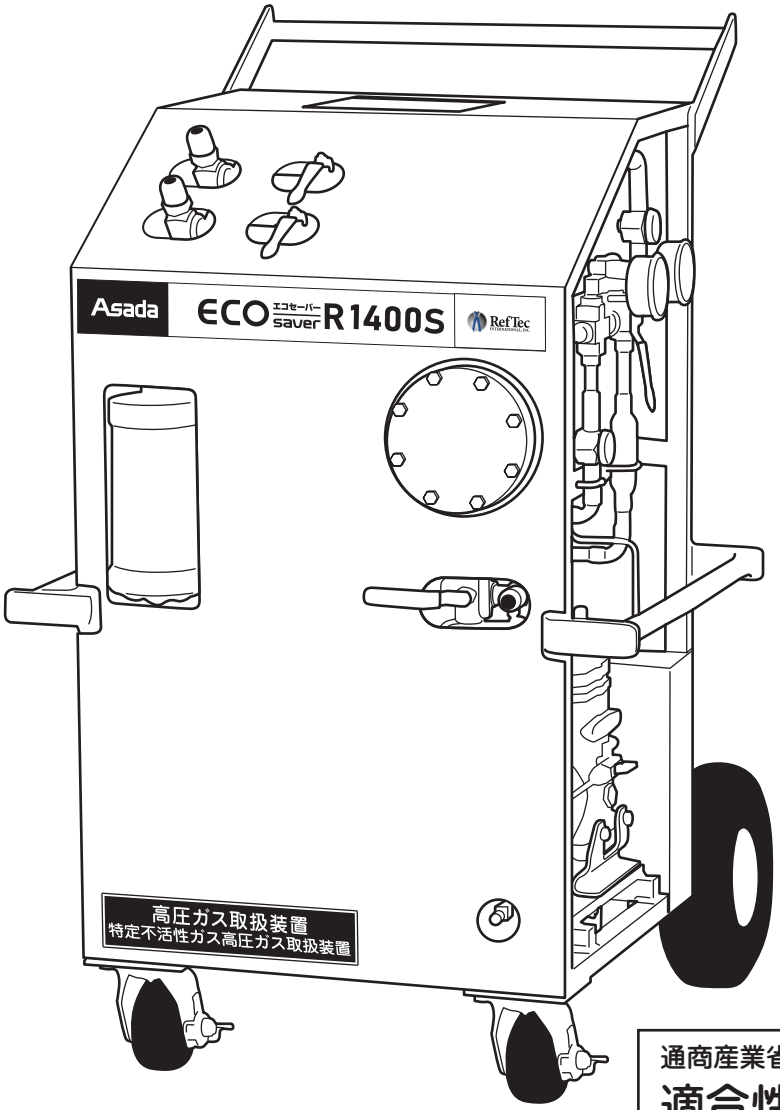
RefTec
INTERNATIONAL SYSTEMS LLC

Asada
環境を守る親切ツール

超高速フロン回収装置

エコセーバーR1400

取扱説明書



通商産業省告示第 139 号に基づく
適合性自己認証製品

【ご使用前に必ず本書をお読みください。】

エコセーバー R1400

安全にご使用いただくために

このたびは、エコセーバー R1400 をお買い上げいただきましてありがとうございます。

- この取扱説明書は、お使いになる方に必ずお渡しください。
- ご使用前に必ず本書を最後までよく読み、確実に理解してください。
- 適切な取扱いでフロン回収装置の性能を十分発揮させ、安全な作業をしてください。
- 本書は、お使いになる方がいつでも取り出せるところに大切に保管してください。
- フロン回収装置を用途以外の目的で使わないでください。
- 商品が届きましたら、ただちに次の項目を確認してください。
  - ご注文の商品の仕様と違いはないか。
  - 輸送中の事故等で破損，変形していないか。
  - 付属品等に不足はないか。

万一不具合が発見された場合は、至急お買い上げの販売店、または当社営業所にお申し付けください。
（本書記載内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。）

警告表示の分類

本書およびフロン回収装置に使用している警告表示は、次の２つのレベルに分類されます。

⚠ 警告 本機に接触または接近する使用者・第三者等が、その取扱いを誤ったりその状況を回避しない場合、死亡または重傷を招く可能性がある危険な状態。

⚠ 注意 本機に接触または接近する使用者・第三者等が、その取扱いを誤ったりその状況を回避しない場合、軽傷または中程度の傷害を招く可能性がある危険な状態。
または、本機に損傷をもたらす状態。

猛毒

ガス注意

爆発

火炎

火気厳禁

感電

火傷

回転物

保護具着用

分解禁止

アース

電源電圧

コード取扱

作業環境

その他

取扱説明書

目　次

安全上のご注意 2
製品の構成 6
- 各部の名称 6
- 仕様 7
- 標準付属品 7
- 別販売品（回収ボンベ） 8
- 別販売品（その他の空調工具） 8

一般的な回収作業手順 9
R1400 の能力を最大限に発揮するために ... 13
回収作業前の重要な点検項目 14
回収方法の選定 15
使用方法 16
- 回収作業前の準備 16
- プッシュプル回収方法 20
- ガス回収方法 22
- R1400 を使用した大量回収方法 26
- ボンベの冷却（サブクール） 27
- 回収中に停止した場合 28

ボンベについて 30
保守・点検 33
修理・サービスを依頼される前に 39
電気配線図 41
配管系統図 42

安全上のご注意

- ここでは、回収装置を使用するにあたり、一般的な注意事項を示します。
- 作業要所での詳しい注意事項は、この後の各章で記載しています。

⚠ 警 告

◆ 回収装置を運転する場合は、換気のよい場所で行ってください。
換気の悪い場所で、万一ガス漏れがありますと酸欠で窒息する恐れがあります。

◆ 可燃性ガス（炭化水素又はハイドロカーボン系）は回収できません。
回収装置にフロン以外「アンモニア・ハイドロカーボン（プロパン・イソブタン）等」の可燃性ガスが混入すると、引火爆発する場合があります。

◆ フロンが燃焼すると強い酸性ガスが発生し、そのガスを吸い込むと大変危険です。
火気を絶対に近づけず、換気のよい場所で作業してください。

◆ 作業中の火気・たばこは厳禁です。
たばこを吸っている時にフロンが漏れると、たばこの火で強い酸性ガスが発生し、吸引する恐れがあります。

◆ 空気の吐出口のファンに、指や棒を入れないでください。
ファンは高速回転していますので、けがや故障の原因となります。

◆ 回収作業時は、必ず保護メガネ・ゴム（皮）手袋を着用してください。
万一フロンが漏れて目に入ったり皮膚に触れると、凍傷や失明する恐れがあります。

◆ 回収装置やホース内に、液状フロンを満杯にした状態でバルブを閉めないでください。

◆ 40℃以上になる場所で運転したり、保管しないでください。
気温の上昇によって、液状フロンが膨張し破裂します。

◆ 回収ボンベは、必ず FC3 を使用してください。

◆ 雨中や濡れた手で操作しないでください。
雨中や濡れた手で電源プラグを抜き差ししたり、電源スイッチを操作すると感電する危険があります。

◆ 必ず、アース（接地）を行ってください。
アース（接地）を行っていないと、故障や漏電時に感電する恐れがあります。

◆ 電源プラグは、常に点検し異常がないことを確認した上、がたつきがない様にしっかりコンセントに差込んでください。
電源プラグに、ほこり油脂分が付着していたり、接続が不完全な状態では感電や火災の原因となります。

◆ 電源コードは、他の電気器具と併用したりタコ足配線をしないでください。
火災の原因となります。

エコセーバー R1400

⚠ 警 告

◆ **電源コードを引っ張ったり、電源コードでプラグの抜き差しを行わないでください。**
感電や火災・ケガの原因となります。

◆ **電源は AC200V20A 以上もしくは、4KVA 以上の発電機をご使用ください。**
容量不足の発電機を使用すると、発熱・発煙・発火の原因となります。機銘鈑・本取扱説明書に記載の仕様を参照してください。

◆ **ガソリンやシンナー・可燃性ガスが漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。**
万一可燃性ガスが漏れて回収装置の周囲に溜まると、爆発・火災の原因となります。

◆ **回収装置から離れるときや、停電・保守・点検のときは、必ず電源プラグを抜いてください。**
回収装置が急に動き事故の原因となります。

◆ **回収装置は、該当する安全規格に適合していますので、改造は行わないでください。**
回収装置は、通商産業省告示第 139 号に基づく適合性自己認証製品です。
改造を行うと、所定の性能がでないばかりでなく、回収装置の故障や事故の原因となります。

◆ **修理技術者以外は絶対に分解しないでください。**

◆ **カバーを外した状態で運転しないでください。**
異常な動作の原因となり、ケガや故障の原因となります。

◆ **回収量には十分注意すること。**
フロートセンサの停止位置以上に回収ボンベに充填すると、過充填となる場合があります。

◆ **回収ボンベは、高圧ガス保安法の容器保安規則にしたがって使用すること。**
回収ボンベは、高圧ガス保安法の容器保安規則にしたがって使用する必要があります。
① 専用容器が定められている場合は、FC 容器ではなく専用容器に充填（回収）します。
② 回収装置メーカーが認可していないFC容器の使用は､高圧ガス保安法の届け出が必要です。
③ 回収ボンベに表示されているガス以外のガスは充填（回収）できません。
④ 再充填禁止容器やガスメーカー所有の容器を、回収ボンベとしては使用できません。
⑤ 回収ボンベは、所有者を表示する義務が課せられています。詳細は、本書の「P30 ボンベについて」を参照してください。

⚠ 注 意

◆ **取入口に「フィルタ」を必ず取付けてください。**

◆ **「漏れ防止剤」の入ったフロンを回収しないでください。**
漏れ防止剤が混じったフロンを回収すると、漏れ防止剤が内部で徐々に硬化し、
バルブや逆止弁などが詰まり故障の原因となります。

⚠ 注 意

◆ **延長用コードは、線径 2.0mm^2 で 20m 以下の 4 芯キャブタイヤコードを使用してください。**
不適切（細い線径や長すぎる）な延長コードは、始動不良となるばかりでなく、発火・火災の原因となります。
また、キャパシター（コンデンサ）やリレー等の電気部品を損傷する恐れがあります。
アース（接地）線のない 2 芯コードを使用すると、感電の恐れがあります。

◆ **回収装置は、ガス回収／プッシュプル回収専用です。**
コンプレッサの損傷を防止するため、フロンが液状かガス状かわからない場合は、プッシュプル回収を行ってください。
液状フロンがコンプレッサに入ると、故障の原因となります。

◆ **回収装置を担当者以外に操作させないよう管理してください。**

◆ **結果の予測ができない、または確信のもてない取扱いはしないでください。**

◆ **回収装置を使用目的以外の用途には使用しないでください。**
回収装置は、指定のフロンを回収するための機械です。

◆ **機械に負担のかかる無理な使用はしないでください。**
過負荷保護装置が働くような無理な作業は、機械の損傷をまねくばかりでなく、事故の原因にもなります。

◆ **振動する場所や傾斜している場所では使用しないでください。**
回収装置やボンベが転倒し、事故の原因となる場合があります。

◆ **作業台や作業場は整理整頓し、いつもきれいな状態で十分な明るさを保ってください。**
作業環境が悪いと事故の原因となります。

◆ **疲労・飲酒・薬物等の影響で作業に集中できないときは、操作しないでください。**

◆ **回収装置を使用しないときは、乾燥した場所で子供の手が届かない、または鍵のかかる場所に保管してください。**

◆ **本書、および当社カタログに記載されている指定の付属品やアタッチメント以外は使用しないでください。 事故や故障の原因となります。**

◆ **回収装置に搭載のコンプレッサは、オイルインコンプレッサです。**
常にオイル量やオイルの汚れに留意し、定期的に補充交換を行ってください。
特に、オイルがない状態での運転は行わないでください。

◆ **回収装置を落としたりぶつけた場合は、ただちに破損・亀裂・変形等がないか点検してください。**
破損・亀裂・変形等がある状態で回収作業を行うと、けがや事故の原因となる場合があります。

エコセーバー R1400

⚠ 注 意

◆ 各部に変形・腐食等がないか常に日常点検を行ってください。

◆ 回収装置の異常（異臭・振動・異常音）に気づいたときは、ただちに停止し、本書の「P39 修理・サービスを依頼される前に」を参照してください。
また、むやみに分解せず点検や修理を依頼してください。

◆ ボンベは、当社製の回収装置専用ボンベをお使いください。
◆ ボンベは、回収するフロンと同じ種類のものを使用してください。

◆ ボンベは、製造年月日（回収ボンベに刻印）により各期限毎の容器検査を受けてください。
詳細は、本書の「P30 ボンベについて」を参照してください。
詳細は、本誌に記載されている、各地の高圧ガス保安協会支部にお問合せください。

◆ 使用していないときは回収容器のバルブを確実に閉じ、液・ガス両方のポートにフレアキャップを取り付け、フロートセンサ付き回収ボンベの場合は、未使用時に必ずゴム製のセンサキャップを取り付けてください。

◆ 破壊処理ご返却された回収ボンベも必ず真空引きをしてください。
新品のボンベには、窒素ガスが封入されています。
回収作業前に必ず真空引きを行ってください。
新品のボンベで窒素ガスが封入された状態で真空引きすると真空ポンプのオイルが排気口より勢いよく噴出されます。
破壊処理が完了後返却された回収ボンベも、念のため真空引きを行ってください。

◆ 回収装置には、低圧スイッチが内蔵されています。
自動停止後に再始動をさせない場合は、電源を切ってください。
一旦、低圧スイッチが作動しても、何らかの理由で圧力が上昇すると、低圧スイッチは自動的に復帰して再起動します。
不意の起動を防止するためには、自動的に再起動しないよう、必ず電源スイッチ【OFF】にしてください。

◆ コンプレッサオイルは回収するフロンに使用されているオイルと同種類のオイルにコンプレッサおよびオイルセパレータ内のオイルを変更して使用してください。
オイルが適切でない場合、コンプレッサの潤滑不良や不純物（コンタミ）が発生し、コンプレッサが破損する可能性があります。

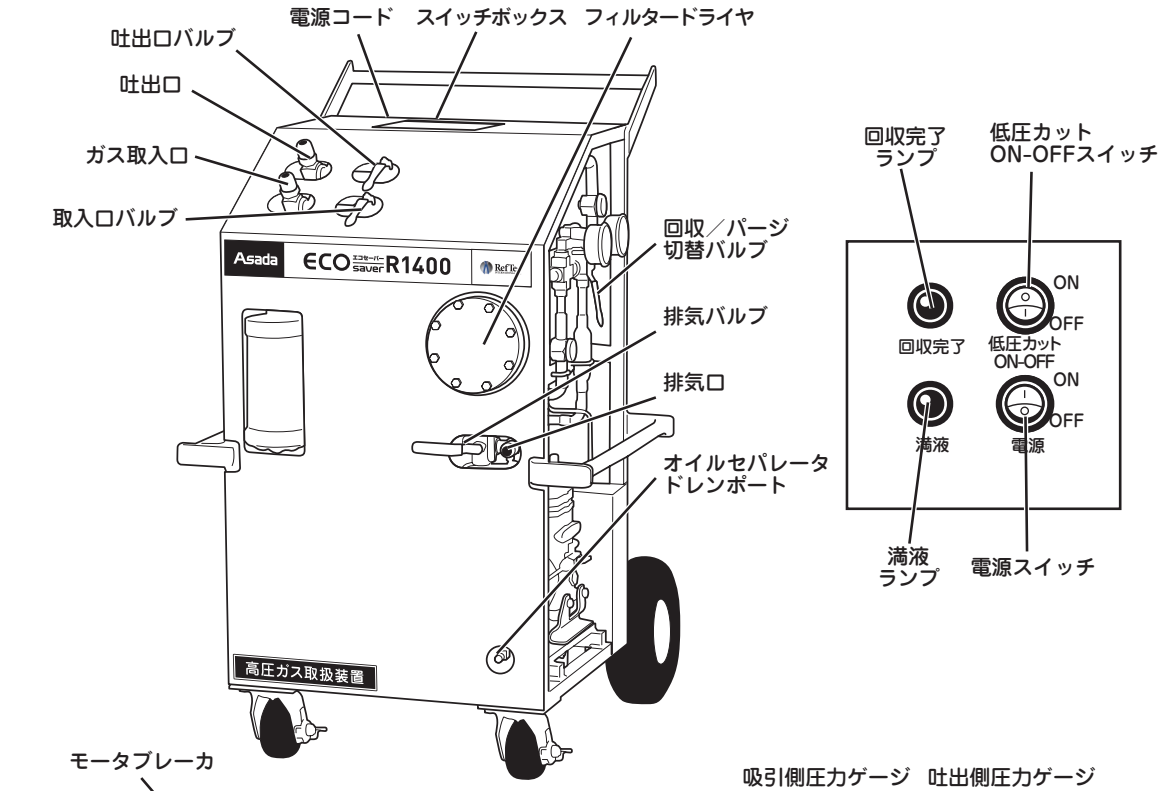
◆ 必ず作業前に、コンプレッサオイル量や質の点検を実施してください。

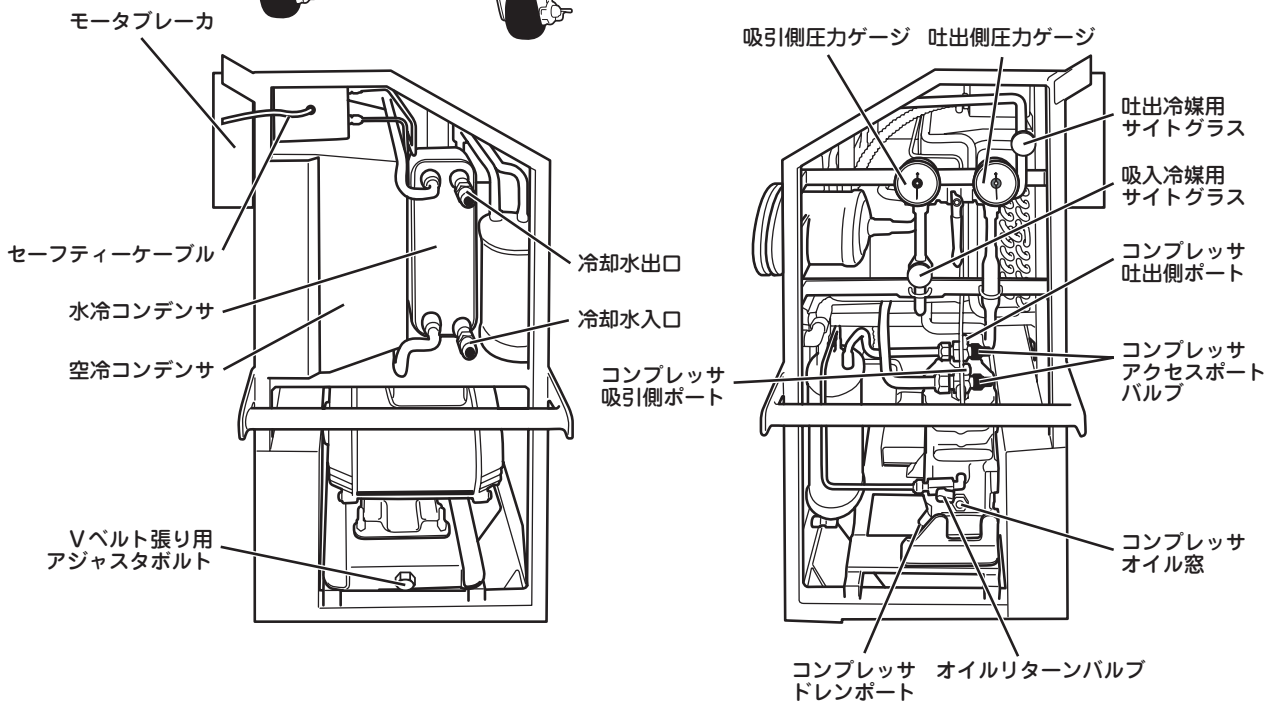
◆ 液状フロンは、絶対に回収しないでください。
液状フロンを回収する恐れがある場合は、オイルセパレータ等で、液状フロンを吸引しないようにしてください。

製品の構成

各部の名称

回収装置には、法律上必要なラベルや安全上の注意ラベルが貼付してあります。
ラベルがはがれたり、汚れて見づらくなった場合には、弊社へご請求ください。
ラベルは必ず同じ場所に貼付してください。





エコセーバー R1400

仕　様

品　名	エコセーバー R1400
コード No.	ES1403
回収冷媒	回収可能な代表冷媒 R12,R22,R134a,R404A,R407C,R407H,R422A,R502,R507Aなど その他の回収可能な冷媒はこちら↓ アサダ株式会社 https://www.asada.co.jp/support/faq/74.html (一財) 日本冷媒・ 環境保全機構 https://www.jreco.or.jp/rrc/jikoninsyo.pdf
回収方式	ガス圧縮回収方式／プッシュプル方式
電　源	三相 200V（50/60Hz）
コンプレッサ	2,250W（3.0HP）2 ピストンオープンドライブ（オイルイン）コンプレッサ
大きさ（L x W x H）	711 x 774 x 1,150mm
質　量	124.7kg
消費電力	1730W
運転電流・始動電流	5A・40A
使用温度範囲	0 ～ 40℃未満
到達真空度	自動停止時：－ 0.044MPa（－ 330mmHg） 手動停止：最高－ 0.098MPa（－ 735mmHg）
対応ボンベ （過充填防止方式別）	フロート検知式◆フロートセンサー式ボンベ　6L・12L・24L・40L・120L 推奨：3/4" ポート 120L 質量計量式◆過充填防止装置付デジタルスケール使用時：一般ボンベ 24L・120L

回収能力	R22	R12	R134a	R502	R407C
ガス（g ／分）	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700
プッシュプル（g ／分）	147,000	147,000	147,000	147,000	147,000

※ 仕様は、予告なく変更することがありますのであらかじめご了承願います。
※ 回収能力の数値は、弊社実測値です。回収の諸条件によって、数値が異なる場合があります。
※ ガス回収能力値は、RRC（冷媒回収推進・技術センター）検査基準を基に標準付属品のホースを使用して実測した数値です。

標準付属品

コード No.	品　名	コード No.	品　名
－	エコセーバー R1400 本体	ES202	異径アダプタ 3/4" メス× 1/4" オス× 3ヶ
Y18510	3/4" チャージングホース プラスⅡ 3m × 2本	ES203	異径アダプタ 1/4" メス× 3/4" オス× 3ヶ
Y18520	3/4" チャージングホース プラスⅡ 6m × 1本	XP734	R1400 フィルタ 3/4" オス× 3/4" オス
ES145	3/4" ボールバルブ× 4 ヶ	RE042	3/4" フレアスイベル
－	電源コード 4 芯 (三相用)15m	RE001	フレアアダプタ 1/2" メス× 5/8" オス
HD445	プラグ接地 3P30A	RE002	フレアアダプタ 5/8" メス× 3/4" オス
ES201	フィルタドライヤコア	－	耐圧・気密試験成績書
RE003	水冷コンデンサ用ホースアダプタ× 2ヶ (＊ホースニップル径：φ20)	IM0022	取扱説明書
		IM0023	操作マニュアル

別販売品（回収ボンベ）

品　名	容量	ポート	コード No.
フロン回収ボンベ（フロートセンサー付き）	120L	3/4" フレア	TF098

※エコセーバー R1400 は、超高速回収装置です。回収ボンベは、R1400 に最適設計されている TF098 をご使用ください。1/4" ポートの回収ボンベを使用すると、コンプレッサへのストレスが多くなり、故障の原因となる場合があります。

※ ボンベには冷媒名が表示してありません。ご使用の際は、消えない油性白色マーカーで必ず冷媒名を表示してください。詳細は P30 をご参照ください。

※ 一般回収ボンベ（フロートセンサー無し）を使用する場合には、必ず過充填防止装置付デジタルスケールを併用する必要があります。

※ 回収ボンベは FC3 類容器（耐圧試験圧力 5.0MPa）です。他の耐圧試験圧力容器は、絶対に使用しないでください。

別販売品（その他の空調工具）

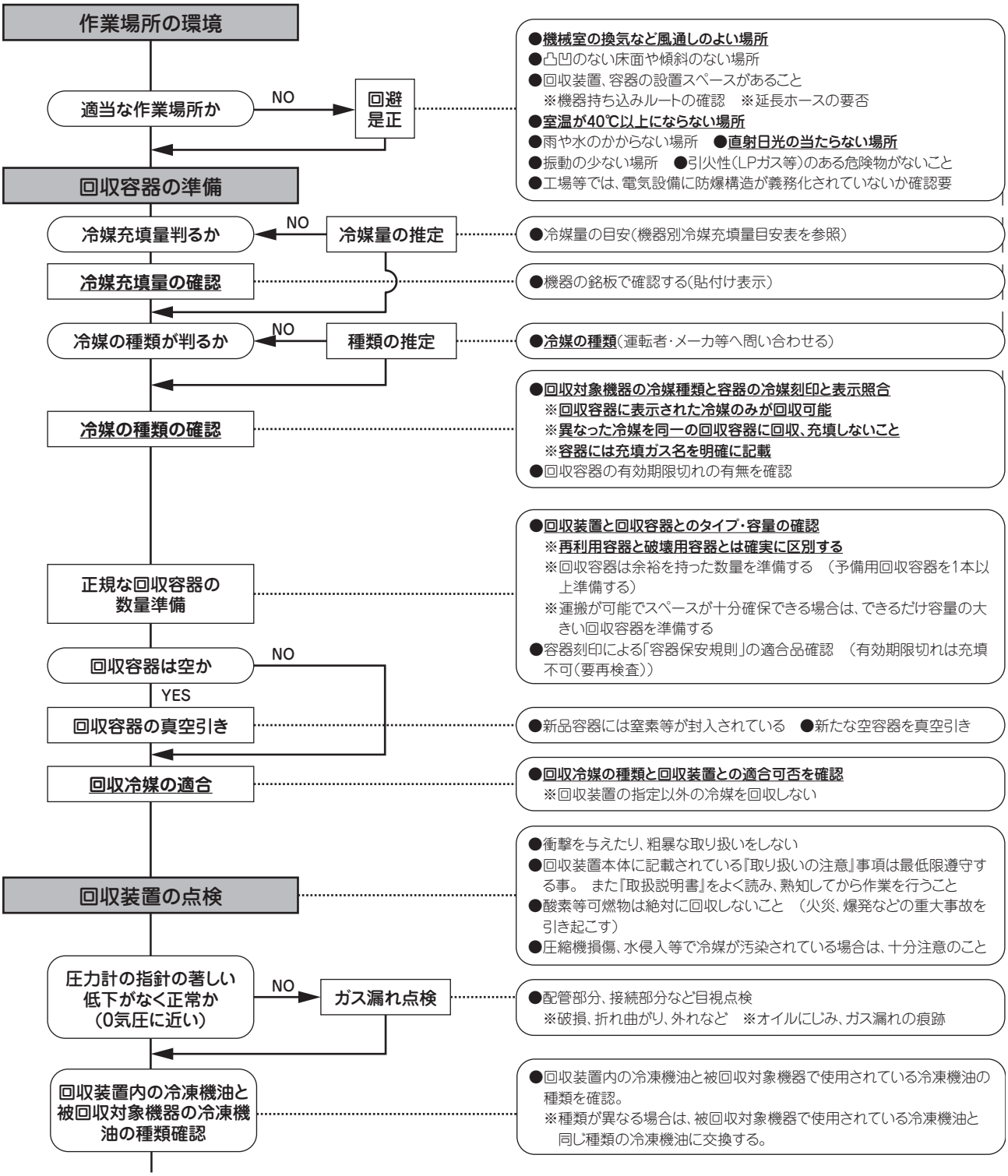
品　名	コード No.	用途説明
クイックチャージングバルブ A	Y18975	サービスバルブのムシをガスを漏らさずに交換が可能で、回収速度がアップします。
異径アダプタ 3/4 オス x5/8 メス	XP769	3/4" オス ～ 1/4" メス　変換する各サイズのアダプタです。
異径アダプタ 5/8 オス x1/2 メス	XP766	
異径アダプタ 1/2 オス x1/4 メス	ES358	
異径アダプタ 3/4 メス x5/8 オス	XP765	3/4" メス ～ 1/4" オス　変換する各サイズのアダプタです。
異径アダプタ 5/8 メス x1/2 オス	XP770	
異径アダプタ 1/2 メス x1/4 オス	XP767	
3/4 チャージングホース 92cm	Y18436	各種サイズのチャージングホースで、標準在庫として 9 種類用意していますが、最長 60m まで各種の長さのチャージングホースを作成できますので、お問合せください。
3/4 チャージングホース 152cm	Y18460	
3/4 チャージングホース 224cm	Y18496	
3/4 チャージングホース 300cm	Y18510	
3/4 チャージングホース 360cm	Y18512	
3/4 チャージングホース 600cm	Y18520	
3/4 チャージングホース 720cm	Y18525	
3/4 チャージングホース 1500cm	Y18550	
R407C 用マニホールドキット	Y409678C	回収装置内の真空引きや、完全パージ作業に使用します。
ホースパッキン 3/4 用（10 ヶ入）	Y19012	3/4" チャージングホースの交換用パッキンです。
ホースパッキン 1/4 用（10 ヶ入）	Y19020	1/4" チャージングホースの交換用パッキンです。

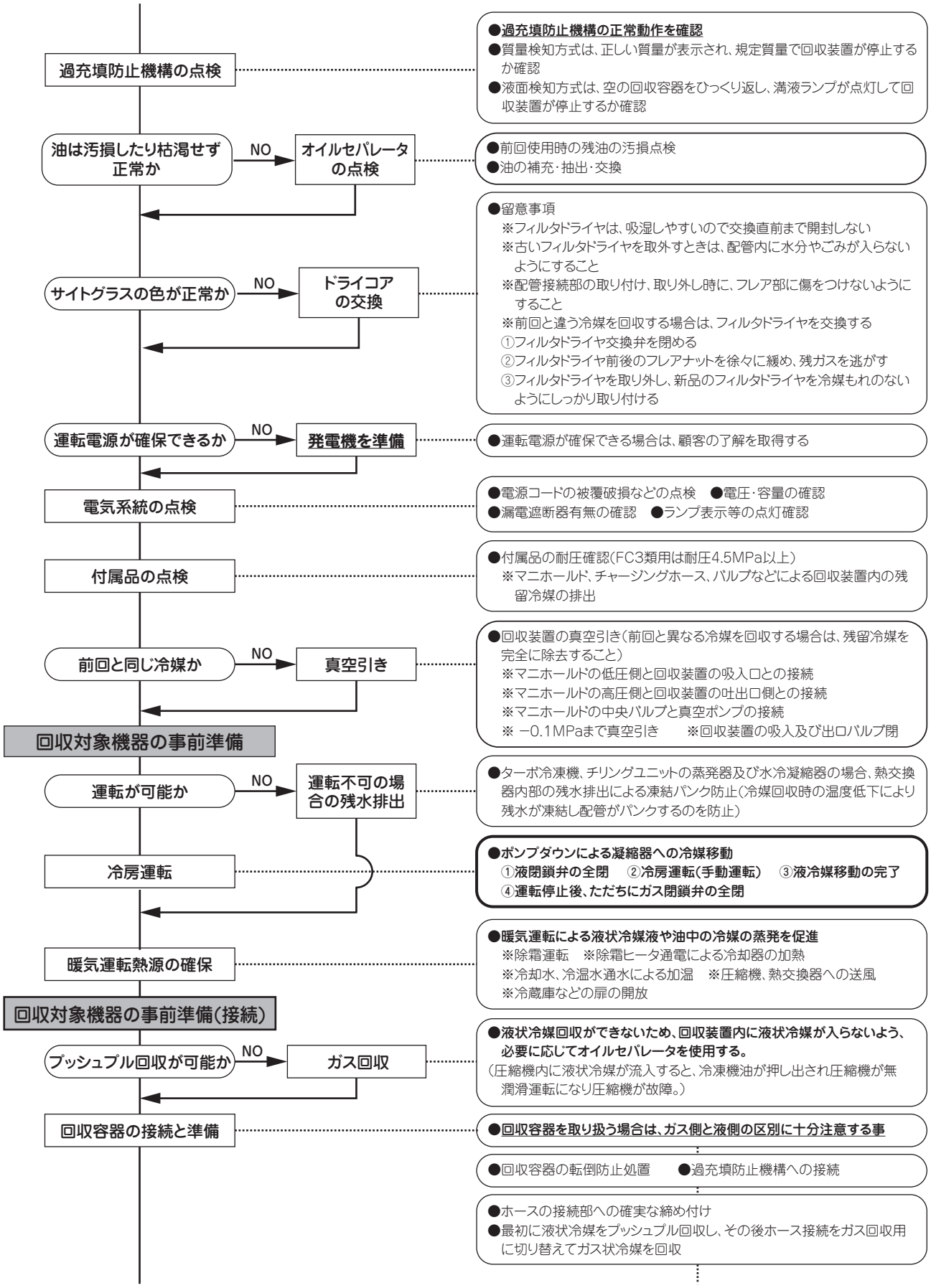
エコセーバー R1400

一般的な回収作業手順

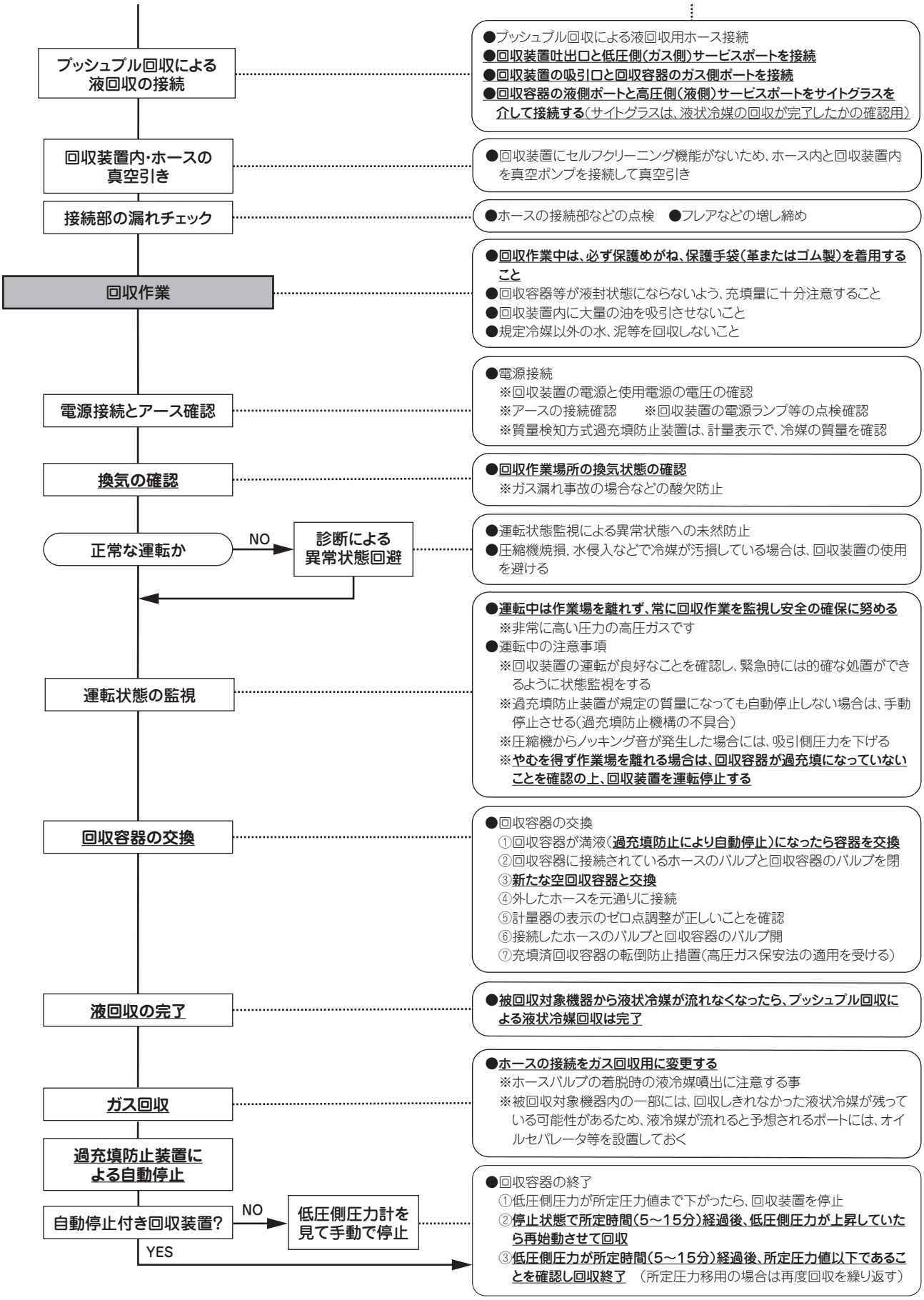
● ここでは、エコセーバー R1400 の取扱説明の前に、一般的な回収作業における作業手順を記載しました。
回収作業を行う場合には、エコセーバー R1400 の取扱いのほか以下の作業手順に留意して実施してください。

★ この作業手順は、社団法人 日本冷凍空調工業会様が発行している、『冷媒回収技術』より引用いたしました。




過充填防止機構の点検
●過充填防止機構の正常動作を確認
●質量検知方式は、正しい質量が表示され、規定質量で回収装置が停止するか確認
●液面検知方式は、空の回収容器をひっくり返し、満液ランプが点灯して回収装置が停止するか確認
油は汚損したり枯渇せず正常か
NO
オイルセパレータの点検
●前回使用時の残油の汚損点検
●油の補充・抽出・交換
サイトグラスの色が正常か
NO
ドライコアの交換
●留意事項
※フィルタドライヤは、吸湿しやすいので交換直前まで開封しない
※古いフィルタドライヤを取外すときは、配管内に水分やごみが入らないようにすること
※配管接続部の取り付け、取り外し時に、フレア部に傷をつけないようにすること
※前回と違う冷媒を回収する場合は、フィルタドライヤを交換する
①フィルタドライヤ交換弁を閉める
②フィルタドライヤ前後のフレアナットを徐々に緩め、残ガスを逃がす
③フィルタドライヤを取り外し、新品のフィルタドライヤを冷媒もれのないようにしっかり取り付ける
運転電源が確保できるか
NO
発電機を準備
●運転電源が確保できる場合は、顧客の了解を取得する
電気系統の点検
●電源コードの被覆破損などの点検　●電圧・容量の確認
●漏電遮断器有無の確認　●ランプ表示等の点灯確認
付属品の点検
●付属品の耐圧確認(FC3類用は耐圧4.5MPa以上)
※マニホールド、チャージングホース、バルブなどによる回収装置内の残留冷媒の排出
前回と同じ冷媒か
NO
真空引き
●回収装置の真空引き(前回と異なる冷媒を回収する場合は、残留冷媒を完全に除去すること)
※マニホールドの低圧側と回収装置の吸入口との接続
※マニホールドの高圧側と回収装置の吐出口側との接続
※マニホールドの中央バルブと真空ポンプの接続
※ −0.1MPaまで真空引き　※回収装置の吸入及び出口バルブ閉
回収対象機器の事前準備
運転が可能か
NO
運転不可の場合の残水排出
●ターボ冷凍機、チリングユニットの蒸発器及び水冷凝縮器の場合、熱交換器内部の残水排出による凍結パンク防止(冷媒回収時の温度低下により残水が凍結し配管がパンクするのを防止)
冷房運転
●ポンプダウンによる凝縮器への冷媒移動
①液閉鎖弁の全閉　②冷房運転(手動運転)　③液冷媒移動の完了
④運転停止後、ただちにガス閉鎖弁の全閉
暖気運転熱源の確保
●暖気運転による液状冷媒液や油中の冷媒の蒸発を促進
※除霜運転　※除霜ヒータ通電による冷却器の加熱
※冷却水、冷温水通水による加温　※圧縮機、熱交換器への送風
※冷蔵庫などの扉の開放
回収対象機器の事前準備(接続)
プッシュプル回収が可能か
NO
ガス回収
●液状冷媒回収ができないため、回収装置内に液状冷媒が入らないよう、必要に応じてオイルセパレータを使用する。
(圧縮機内に液状冷媒が流入すると、冷凍機油が押し出され圧縮機が無潤滑運転になり圧縮機が故障。)
回収容器の接続と準備
●回収容器を取り扱う場合は、ガス側と液側の区別に十分注意する事
●回収容器の転倒防止処置　●過充填防止機構への接続
●ホースの接続部への確実な締め付け
●最初に液状冷媒をプッシュプル回収し、その後ホース接続をガス回収用に切り替えてガス状冷媒を回収

エコセーバー R1400



回収の後作業

- **回収装置内の残留冷媒の回収**
  - ●<u>回収装置にセルフクリーニング機能がないため、回収装置内の冷媒を回収する場合は、真空引きした回収容器を回収装置の吐出口に接続して回収容器内へ吸引させる</u>
  - ●回収装置の電源をOFF
- **接続部の分離**
  - ●後作業
    - ※被回収対象機器、回収装置、回収容器のバルブを閉(確実に閉じること)
    - ※被回収機器の電源遮断と、回収被置のプラグをコンセントから外す
    - ※チャージングホースの接続部を徐々に緩めて外す
    - ※回収容器のバルブ接続口にシールキャップを取り付ける（漏えい防止処置）
    - ※充填済み回収容器を取り外し、全部の充填済み回収容器を再生、破壊の措置をするまで保管(法の規則に基づいた貯蔵管理)
    - ※被回収機器のバルブ閉状態確認
- **回収装置の残圧確認**
  - ●次回回収作業のための措置
    - ※次回の回収作業時のガスもれ点検及び空気混入(水分)防止のため、回収装置圧力計の指示値により残圧のあることを確認
    - ※日常点検で回収装置の変形、腐食の有無を確認〈高圧ガス保安法〉

回収容器

- **回収冷媒の表示**
  - ●回収冷媒充填の表示
- **運搬**
  - ●「高圧ガス保安法」及び「フロン排出抑制法」に基づく運搬
- **保管管理**
  - ●「高圧ガス保安法」に基づく保管
- **回収冷媒の措置**
  - ●再生手配　●破壊手配　●再生証明書、破壊証明書の回付、保存
- **回収空容器の洗浄**
  - ●容器内の不純物堆積物の洗浄
  - ●真空引き

製品別冷媒充填量目安表

製　品	種　別	冷媒充填量の目安
電気冷蔵庫		5～6g／10L冷蔵庫内容積
業務用冷蔵庫		600～1,600g／台
カーエアコン		600～1,200g／台
ルームエアコン		600～1,200g／台
ショーケース	内蔵形	80～400g／台
	別置形7.5kW以下空冷	8～16kg／kw圧縮機定格
	別置形7.5kW以下水冷	5～ 9kg／kw圧縮機定格
	別置形7.5kW超　空冷	4～10kg／kw圧縮機定格
	別置形7.5kW超　水冷	2～ 5kg／kw圧縮機定格
冷凍冷蔵庫用ユニット	標準形	0.5～3.5kg／kw圧縮機定格
パッケージエアコン	標準形	0.4～1.8kg／kw圧縮機定格
	特殊エアコン	0.9～4.0kg／kw圧縮機定格
	ビル用マルチエアコン	2.5～6.0kg／kw圧縮機定格
チリングユニット	往復式･スクロール	0.7～1.7kg／kw圧縮機定格
	スクリューチラー空冷	4.0～6.0kg／kw圧縮機定格
	スクリューチラー水冷	2.0～3.0kg／kw圧縮機定格
遠心冷凍機	高圧ターボ	0.8～2.0kg／USRT公称能力
	低圧ターボ	2.2kg／USRT公称能力

⚠ 注 意

◆ この値は目安なので銘鈑でその製品の充填量を確認してください。
◆ 空冷の機器は、水冷の機器よりも充填量は大幅に多いのが普通です。
◆ 現地施工の冷媒配管が長いときは、その分充填量が増加します。

エコセーバー R1400

R1400 の能力を最大限に発揮するために

● ここでは、エコセーバー R1400 の能力を最大限に発揮するために注意する事項を記載しています。
可能な限り、これらの注意事項に従って回収を行うようにしてください。

回収作業前の準備

1）使用する機器のサイズ

□ 本機を使用する場合は、3/4" ポートサイズの大口径回収ボンベが必要です。

□ 使用するホースは 3/4”サイズを使用し、継手等もやむをえない場合を除いて 3/4”サイズを使用してください。

★ 細い径のホースや継手のサイズ使用すると、抵抗となって回収の力が落ちるばかりでなく、回収済みフロンの冷却能力が低下して回収ボンベの温度が上昇しやすくなります。

★ 吸引側に細い径を使用すると､回収装置の低圧スイッチの誤作動（システム内に圧力が残っていても自動停止する）が起こりやすくなり、吐出側に細い径を使用すると、高圧スイッチの誤作動（ボンベ内の圧力が低くても高圧警告で自動停止する）が起こりやすくなります。

★ 細い径の継手は最小限度とし、ムシ付ポート等はコード No.：Y1895 クイックチャージングバルブ A などを使用して、回収前にムシを取り外しておきます。

2）ガス回収時のフロンの温度低下

□ ガス回収を行う際、液状フロンがたまっている部分があると、その部分の液状フロンの温度が低下し、蒸発できずに回収不可能になる場合があります。特に、アキュムレータやレシーバータンク内に存在する液状フロンには注意してください。

★ アキュムレータやレシーバータンク等を暖める等の対策を実施することによって、防止できます。

★ 事前に、液状フロンが存在する部分のみの液状フロンを、ピアッシングバルブと 100V 回収装置のエコセーバーシリーズなどの液回収が可能な回収装置で回収を行っておくか、アキュムレータやレシーバータンク等を暖める等の対策を実施することによって、防止できます。

3）コンプレッサオイル量の確認

□ エコセーバー R1400 では、オープンドライブオイルインコンプレッサを採用しています。このコンプレッサは、オイル量やオイル質によって性能が大きく左右されます。

★ 常に、コンプレッサオイル量をチェックし、適切なオイルが存在していることを確認してください。

★ 誤って、液状フロンを回収すると、液状フロンと一緒にオイルが吐出され、コンプレッサ内が無潤滑状態となります。この状態で回収を継続するとコンプレッサが破損します。

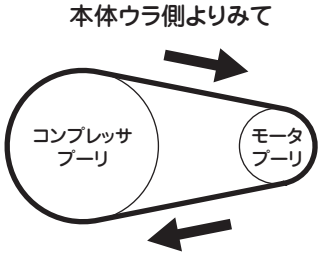
★ オイル量が少ない状態で運転すると、コンプレッサが破損しますので、必ず所定量オイルが入っている状態で作業を行ってください。

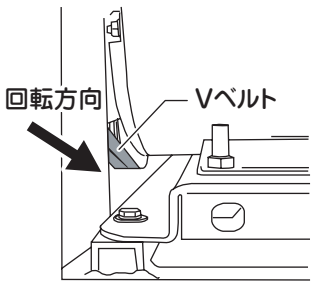
★ コンプレッサオイルはフロンが CFC･HCFC の場合は鉱物油、HFC の場合は合成油に変更して使用してください。オイルが適切でない場合、フォーミング現象を起しコンプレッサの潤滑不良を引き起こしたり、オイルが早く減少し、コンプレッサの破損の原因となります。

★ コンプレッサオイルは回収するフロンに使用されているオイルと同種類のオイルにコンプレッサおよびオイルセパレータ内のオイルを変更して使用してください。オイルが適切でない場合､コンプレッサの潤滑不良や不純物(コンタミ）が発生し、コンプレッサが破損する可能性があります。

4）コンプレッサ回転方向に関する注意事項

★ エコセーバー R1400 は、三相 200V を使用しています。本体左下側よりＶベルトの回転方向を確認し、Ｖベルトが右図の回転方向になるようご使用ください。もし逆方向の場合は、電源コード 3 本の内 2 本を入れ替える等の処置を実施して、回転方向を逆向きに変更してください。





回収作業前の重要な点検項目

■ エコセーバー R1400 を使用する前に、「オイルの点検」と「回収方法の選定」チャートに従って、正しい状態で回収作業を行ってください。

■ この点検は、エコセーバー R1400 のオイルに関する点検のみを記載していますので、これ以外の点検は「P33 保守・点検」の項に従い必ず実施してください。

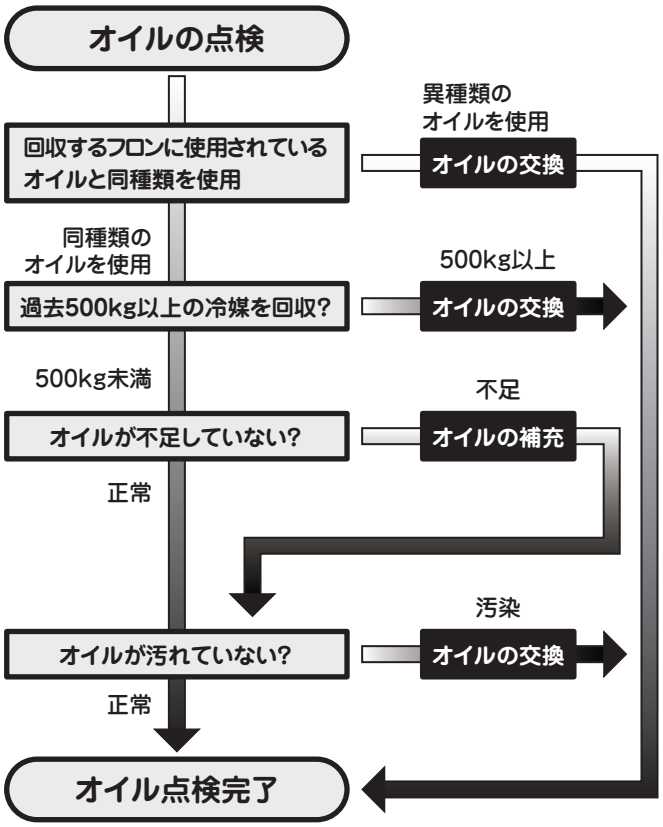
オイルの点検

- コンプレッサオイル窓内のサイトグラスで、オイルの量や汚れを点検します。
- サイトグラスにオイル面が見られない場合は、補充します。
- コンプレッサオイルが、サイトグラスより見て汚れている場合は、使用時間が短い場合でも、ただちに交換します。

※ サイトグラスが見えにくい場合には、懐中電灯などで照らして見るようにします。

※ オイルの補充や交換方法は、取扱説明書中のメンテナンスの項を参照してください。

※ 出荷時は鉱物油（スニソ　4GS）がコンプレッサおよびオイルセパレータに封入されています。CFC、HCFC を回収する場合はそのまま使用できます。HFC を回収する場合は回収するフロンに使用されているオイルと同じ種類のオイルに交換してください。



⚠ 注 意

◆ 原則的に、約 500kg のガス回収を行った時点で、コンプレッサ内のオイルを交換してください。
◆ オイルを補充していくより、こまめなオイル交換を行ったほうが、コンプレッサを長持ちさせることができます。

長時間使用しない場合の注意事項

- 長時間使用しない場合（特に冬季）には、回収装置内の冷媒を抜き、コンプレッサおよび、オイルセパレータ内に冷媒を残留させない様にしてください。
  次回始動時に、フォーミング現象が発生してコンプレッサ破損に繋がる危険性があります。

エコセーバー R1400

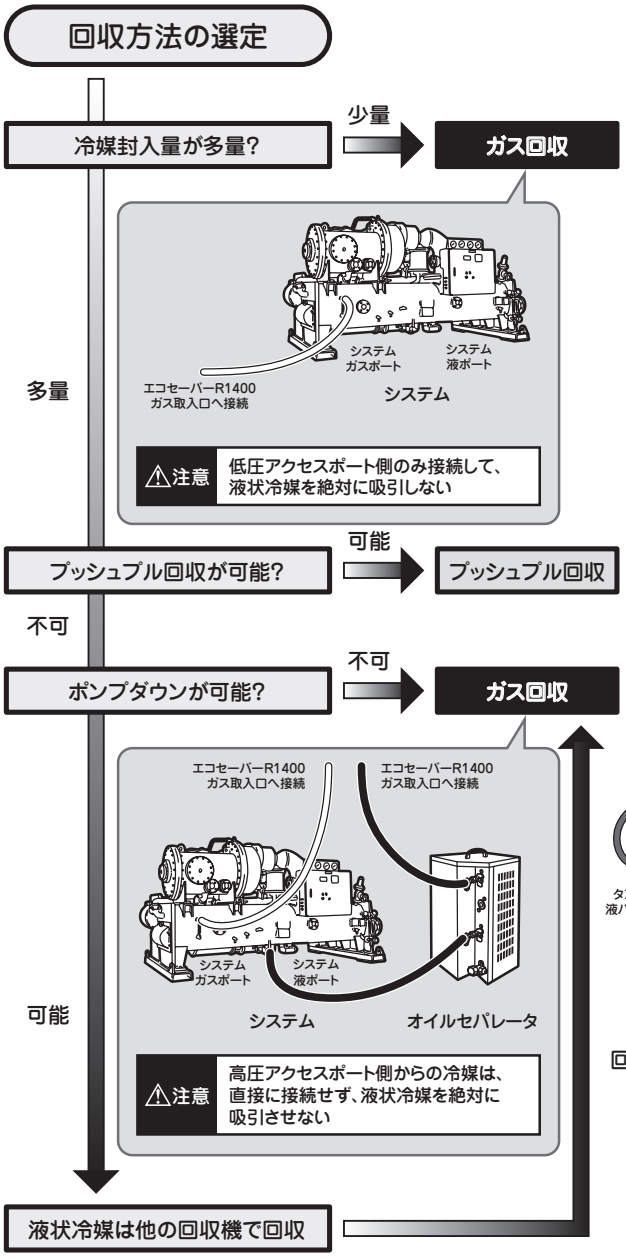
回収方法の選定

■ 本機を使用するには、3/4" ポートサイズの大口径ボンベが必要です。

■ エコセーバー R1400 は、「プッシュプル回収」と「ガス回収」専用の回収装置ですので、「液回収」はできません。

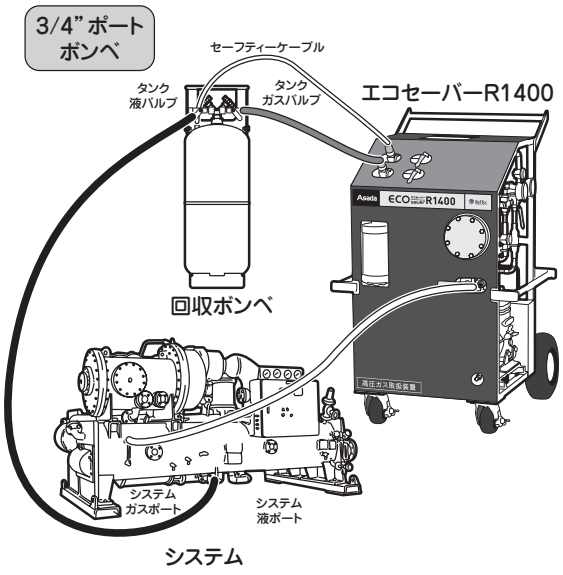
■ 正しく効率いい回収を行うため、回収方法選定のチェックシートに基づいて、一番適した回収方法を選定してください。

■ 大量の液状フロンを回収する場合は、まず最初にプッシュプル回収を行い、その後、残ったガスをガス回収してください。

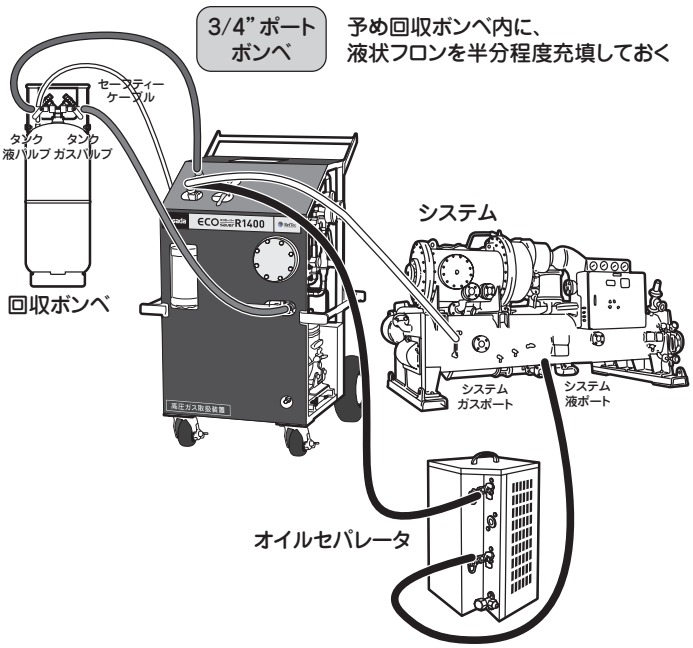


※ R1400以外の回収機でも十分な回収能力を得ることができます。
液状冷媒のみを100Vタイプのエコセーバーを使用して回収し、その後
ガス状冷媒をR1400で回収する方法が、効率のよい回収方法の一つです。

プッシュプル回収接続



ガス回収接続



使用方法

回収作業前の準備

1）使用環境

● 次の使用環境を十分考慮して、『運搬』・『ボンベの真空引き』を行ってください。

① 雨中や回収装置内部に水が入りやすい場所では、使用しないでください。
本機は冷却用としてファンを内蔵していますので、ファンが水を吸い込む可能性があります。
② 万一フロンが漏れても、窒息しないよう密閉された部屋で使用しないでください。
③ ホスゲン（猛毒）が発生しないよう、火気のないところで使用してください。
④ 可燃性ガス（炭化水素又はハイドロカーボン系）は回収できません。
回収装置にフロン以外「アンモニア・ハイドロカーボン（プロパン・イソブタン）等」の可燃性ガスが混入すると、引火爆発する場合があります。

● ご使用前には、以下の項目に注意して作業を行ってください。

① フロン回収装置・チャージングホース・回収ボンベ（以下、回収装置・ホース・ボンベと略称する）内の真空引きを必ず行ってください。
② 装置を運転する場合は、取入口バルブを【閉】にしてスタートしてください。
③ 回収作業中に回収装置を停止させる必要があるとき、吐出口バルブや回収ボンベのバルブを最初に【閉】にしないでください。
高圧がかかり、ゲージを損傷する恐れがあります。
被回収装置器側のマニホールドのバルブを【閉】にして、回収装置の電源を【OFF】にしてから、吐出（高圧）側のバルブを閉じてください。
④ 周辺温度が高いときにボンベの温度が上昇します。
その場合は、ボンベの温度と圧力を下げて使用してください。
「P27 ボンベの冷却（サブクール）」を参照してください。
⑤ ホースとボンベの中に空気が入らないようにしてください。
ボンベ内に空気が入っている場合は、ガスバルブを開けて排気してください。
フロンが放出される前に空気のみ排気できます。
⑥ オイルを大量に含んだフロンを回収する場合は、オイルセパレータを使用して回収してください。
大量のオイルを回収するとコンプレッサの故障の原因となります。
⑦ 漏れ防止剤を使用したことのあるエアコンからフロンを回収しないでください。
漏れ止め剤は時間の経過とともに空気・湿気で反応後、凝固し硬化するため、コンプレッサやバルブなどが詰まり現象を起こし、回収装置の故障の原因となります。
⑦ チャージングホースを接続する際は、パッキンがしっかりと装着されていることを確認し、確実に固定してください。また、パッキンに傷等がみられた場合は、新しいパッキンに交換してください。

2）運搬

● 運搬する際は、必ず回収装置とボンベの各接続を取り外して行ってください。

⚠ 注 意

◆ 運搬する際は、必ず本機とボンベの各接続を取り外して行ってください。
◆ フロンが充填されたボンベは重量物ですので、十分注意して運搬するようにしてください。

3）フィルタの組込み

- エコセーバー R1400 には、フィルタドライヤが内蔵されています。
  初めてお使いいただく前には、標準付属品のフィルタコアを組み立ててから回収を行ってください。
- フィルタコアの交換方法は、保守・点検の項（P34 フィルターコアの交換）に説明していますので、この手順に従ってフィルタコアを組み立ててください。
- また、フィルタコアは消耗品です。吸引側サイトグラスからみえるフロンの汚染度がひどい場合は、
  回収作業ごとに交換を行ってください。
  可能な限りフィルタコアは回収ごとに、毎回交換するようにしてください。

⚠ 注 意

◆ フィルタコアを組み立てずに回収を行うと、コンプレッサオイルが汚染され、コンプレッサの焼損の原因となります。
◆ エコセーバー R1400 を使用しない時は、必ず吸引吐出の両バルブを締め、切替バルブを回収モードにして保管します。
開けた状態で保管すると、フィルターコアが水分を吸い、再生や回収ができなくなります。

4）ボンベの真空引き（真空ポンプを使用）※真空ポンプは別販売品

- ボンベは、必ず当社製の FC3 を使用してください。
- 空のボンベは、真空引きをした後、使用してください。

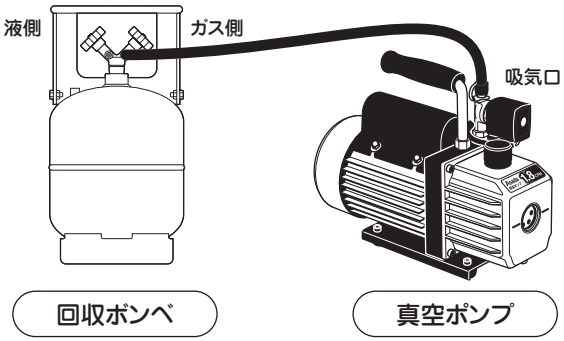
⚠ 注 意

◆ ボンベは回収装置に合せて設計されています。
指定のボンベを使用しないと冷媒の過充填・ボンベの破裂の恐れがあります。

⚠ 注 意

◆ 新品のボンベには、窒素が封入されています。
ガスバルブを開けて窒素を放出後、真空引きをしてください。
◆ フロンが入ったボンベは、絶対に真空引きしないでください。
フロンが大気中に放出されると共に、真空ポンプ内の潤滑油が真空ポンプ外に噴出します。

① 新品ボンベの場合は、一度回収ボンベのガスバルブを開け、ボンベ内部の窒素ガスを【放出】
② 真空ポンプの吸気口とボンベのガス側をホースで【接続】
③ 真空ポンプの電源スイッチを【ON】
④ ボンベの液バルブを【閉】、ガスバルブを【開】
⑤ 真空度が－ 0.095 ～－ 0.1MPa に達したら、ボンベのガスバルブを【閉】
⑥ 真空ポンプの電源スイッチを【OFF】
⑦ 真空ポンプとボンベのガス側に接続されているホースを【外す】



5）ボンベの真空引き（回収装置を使用）

- ボンベは、必ず当社製の FC3 を使用してください。
- 空のボンベは、真空引きをした後、使用してください。

⚠ 注 意

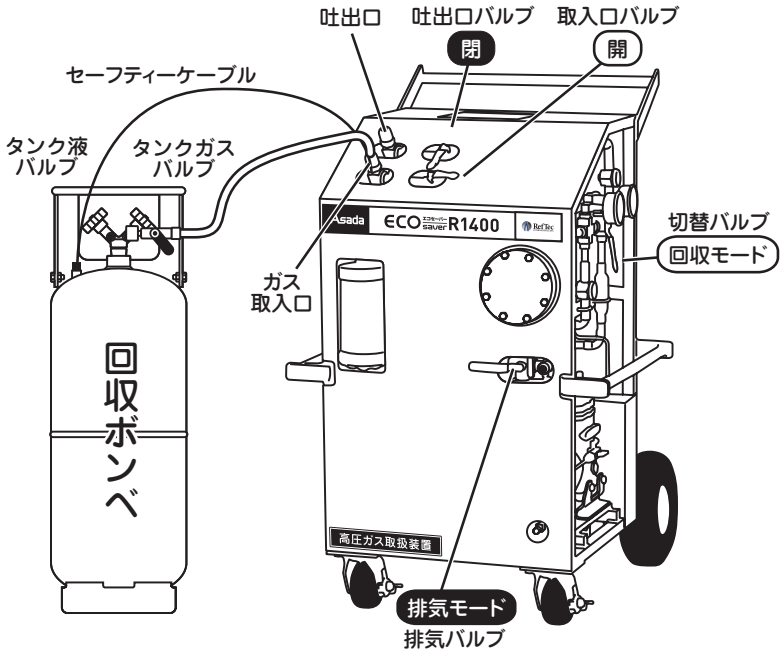
◆ **ボンベは回収装置に合せて設計されています。**
指定のボンベを使用しないと冷媒の過充填・ボンベの破裂の恐れがあります。

⚠ 注 意

◆ **新品のボンベには、窒素が封入されています。**
ガスバルブを開けて窒素を放出後、真空引きをしてください。

◆ **フロンが入ったボンベは、絶対に真空引きしないでください。**
フロンが大気中に放出されると共に、真空ポンプ内の潤滑油が真空ポンプ外に噴出します。

① 新品ボンベの場合は、一度ボンベのガスバルブを開け、ボンベ内部の窒素ガスを【放出】
② 回収装置の「ガス取入口」とボンベのガスバルブをチャージングホースで【接続】
③ 回収装置の「低圧カット ON - OFF スイッチ」を【OFF】
④ 各操作バルブを右図のように【設定】
⑤ セーフティーケーブルを接続して電源を【ON】
⑥ ボンベのガスバルブを【開】
⑦ 真空度が－0.09MPa以上に達したら、ボンベのガスバルブを【閉】
回収装置の電源を【OFF】
⑧ チャージングホースを【外す】



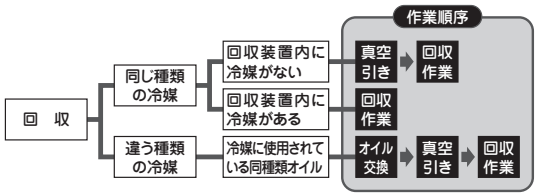
■ コンプレッサに、きれいなオイルが適正量入っている事を確認します。
★ 汚れ具合や入っている量が、サイトグラスを見てもよくわからない場合には、必ず新しい冷凍機油に交換してから回収作業を行います。

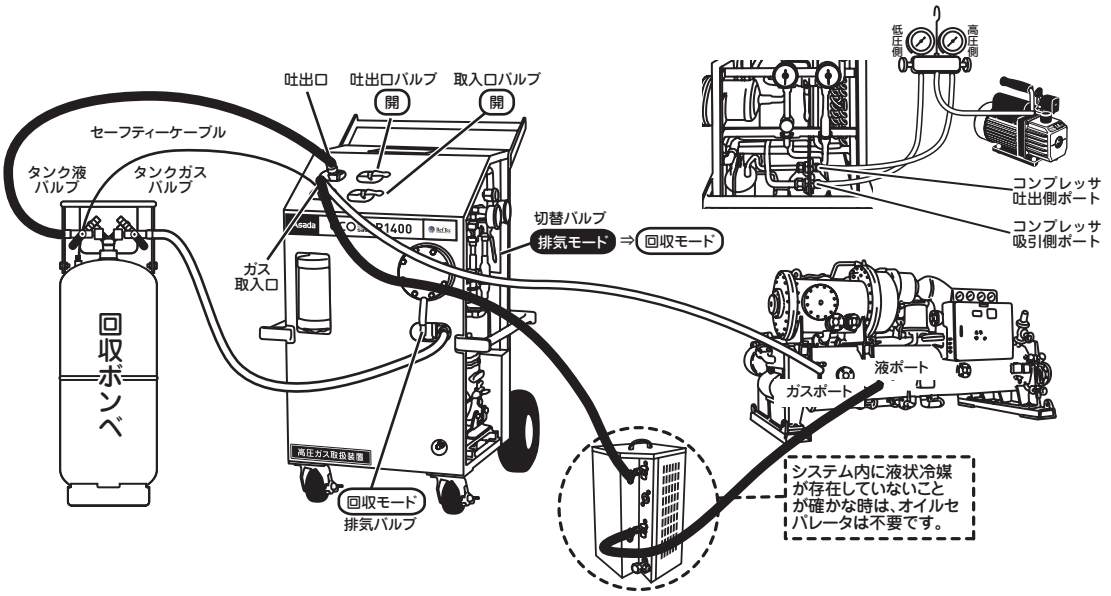
■ 被回収システムのポートから絶対に液状フロンが吸引されないことを確認します。
★ もし、液状フロンを吸引する可能性がある場合には、必ず被回収システムと回収装置の間にオイルセパレータ等を接続して、直接液状フロンが回収装置内に入らないようにします。

■ コンプレッサオイルは回収するフロンに使用されているオイルと同種類のオイルにコンプレッサおよびオイルセパレータ内のオイルを変更して使用してください。
★ オイルが適切でない場合、コンプレッサの潤滑不良や不純物（コンタミ）が発生し、コンプレッサが破損する可能性があります。

6）回収装置内の真空引き

- 再生目的で回収する場合や、異種フロン回収後に再生目的で回収する場合には、回収装置とホース内の空気を完全にパージする必要があります。
- 破壊目的の場合や既に同種類のフロンを回収して回収装置内にフロンが存在する場合は、以下の作業は不要です。
- 回収目的や、回収装置の状況によって作業手順が異なりますので、右チャートに従ってください。





① 上図のように【接続】
操作バルブを上図のように【設定】
※ この接続は、ガス回収用の接続です。
※ ボンベにフロートスイッチがついていない一般の回収ボンベを使用する場合は、必ず過充填防止装置付デジタルスケールを使用して回収してください。
② 別販売品のマニホールドを使用して以下のように【接続】
マニホールドの高圧側・低圧側バルブを【閉】
センターホースを真空ポンプの吸入口へ。
高圧側ホースを回収装置の「コンプレッサ吐出側ポート」へ。
低圧側ホースを回収装置の「コンプレッサ吸引側ポート」へ。
コンプレッサのアクセスポートを【開】
③ マニホールドの高圧側・低圧側ゲージの圧力が「0MPa」であることを確認して、高圧側・低圧側バルブを【開】
※ マニホールドの高圧側・低圧側ゲージの圧力が「0MPa」以上の場合は、真空引きできません。
④ 真空ポンプの電源を【ON】
⑤ マニホールドの高圧側・低圧側バルブを【開】
⑥ 切替バルブを【排気モード】
⑦ マニホールドのゲージが「真空」になったら、切替バルブを【回収モード】
⑧ マニホールドのゲージが「真空」になったら、コンプレッサのアクセスポートを【閉】
⑨ 真空ポンプの電源を【OFF】にして、マニホールドの接続を【外す】

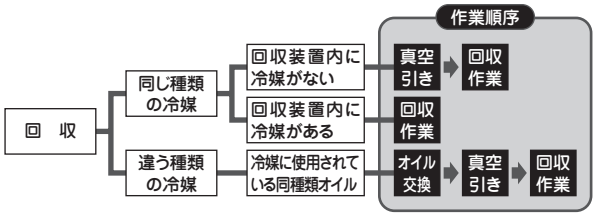
⚠ 注 意

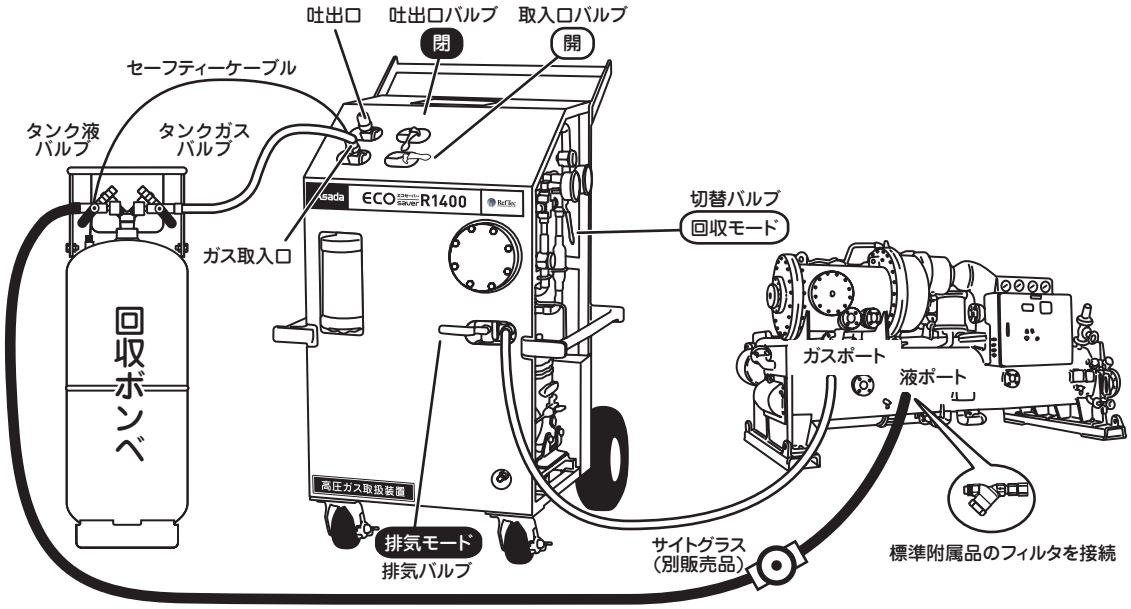
◆ 真空引き中は、システムのアクセスポートや回収ボンベのバルブを開かないでください。
◆ 回収装置内に圧力がある場合は、真空ポンプで真空引きしないでください。

プッシュプル回収方法

1）ホース、コード類の接続

- この回収方法は、大量の液状フロンを高速で回収する方法です。回収は、液状フロンしかできないため、プッシュプル回収後は、ガス回収を実施します。
- 回収目的や、回収装置の状況によって作業手順が異なりますので、右のシートに従って作業を行ってください。





① ホースを上図のように【接続】

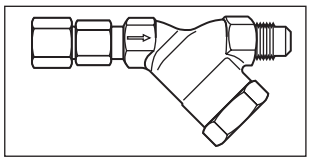
※ ボンベにフロートスイッチがついていない一般の回収ボンベを使用する場合は、必ず過充填防止装置付デジタルスケールを使用して回収してください。

② セーフティーケーブルをボンベか過充填防止装置付デジタルスケールの接続コネクタに【接続】

※ セーフティーケーブルを接続しないと、回収装置は始動しません。

③ このプッシュプル回収では、システム内のフロンが直接ボンベ内に流入するため、システムの高圧側ポート位置に標準付属品のフィルタ（右図）を使用してください。

※ フィルタを使用しないと、ゴミ等が液フロンと共にボンベ内に入りボンベのバルブの破損の原因となります。



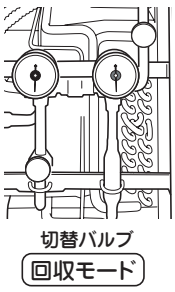
- プッシュプル回収では、以下のシステムでは使用できません。
  - フロン量が約 5kg 以下の空調冷凍システム。
  - ヒートポンプおよび、逆止弁や電磁弁が使用されているシステム。
  - アキュムレータが使用されているシステム。
  - その他、機器や状況によって使用できない場合があるため、不明な場合にはシステムの製造メーカ等へお問合せ願います。

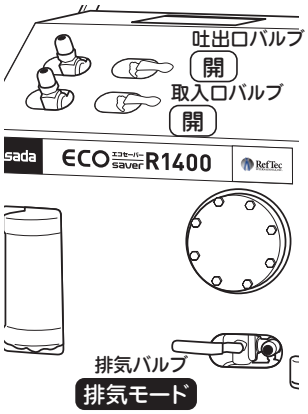
● この回収方法では、システム内の汚れ等が直接液フロンと共にボンベは回収されます。
これを防止するには、システムの液側ポートに標準付属品のフィルタを使用します。
フィルタを使用しないとボンベのバルブの破損の原因となります。

エコセーバー R1400

2）回収作業

① 回収するシステムの電源スイッチを【OFF】
② 必要に応じてコンプレッサオイル、フィルタコアを交換してください。（P34・P35 参照）
③ 必要に応じて回収装置およびホース内の【排気】（P19 参照）
④ バルブを右図のように設定。
⑤ オイルリターンバルブを【開】
⑥ システムの高圧側と低圧側のサービスポートを【開】
⑦ ボンベの液側とガス側のバルブを【開】
⑧ 回収装置の各ポートのバルブを【開】
⑨ 低圧カット ON-OFF スイッチを【ON】
⑩ 電源スイッチを【ON】



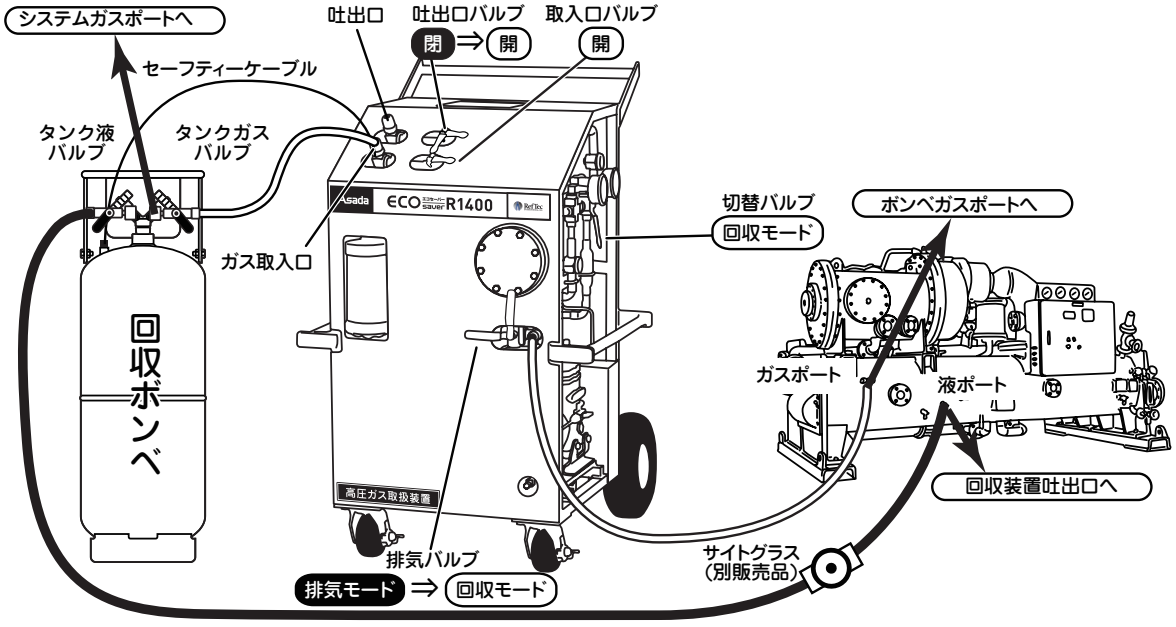


プッシュプル回収のスタート

⑪ システム液側ポートに接続したサイトグラス（別販売品）で液状の流れがなくなるまで続けてください。
※ 回収中、ボンベが満液になると満液ランプが点灯して回収装置が自動停止するため、ボンベを交換します。（P28 参照）
⑫ サイトグラスで液状の流れがなくなったら、引き続きガス回収を行ってください。

プッシュプル回収の完了

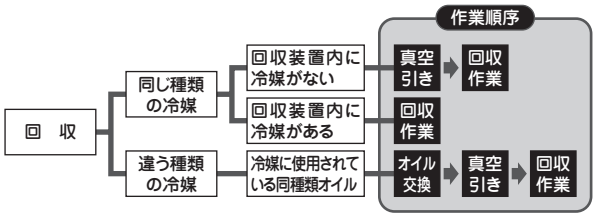
⑬ 全てのホースのバルブと回収装置の取入口・吐出口バルブを【閉】
⑭ システムとボンベのバルブを【閉】
⑮ 下図にしたがって、ホースを入替えてください。
⑯ 引き続いて、ガス回収を行ってください。（P22 参照）

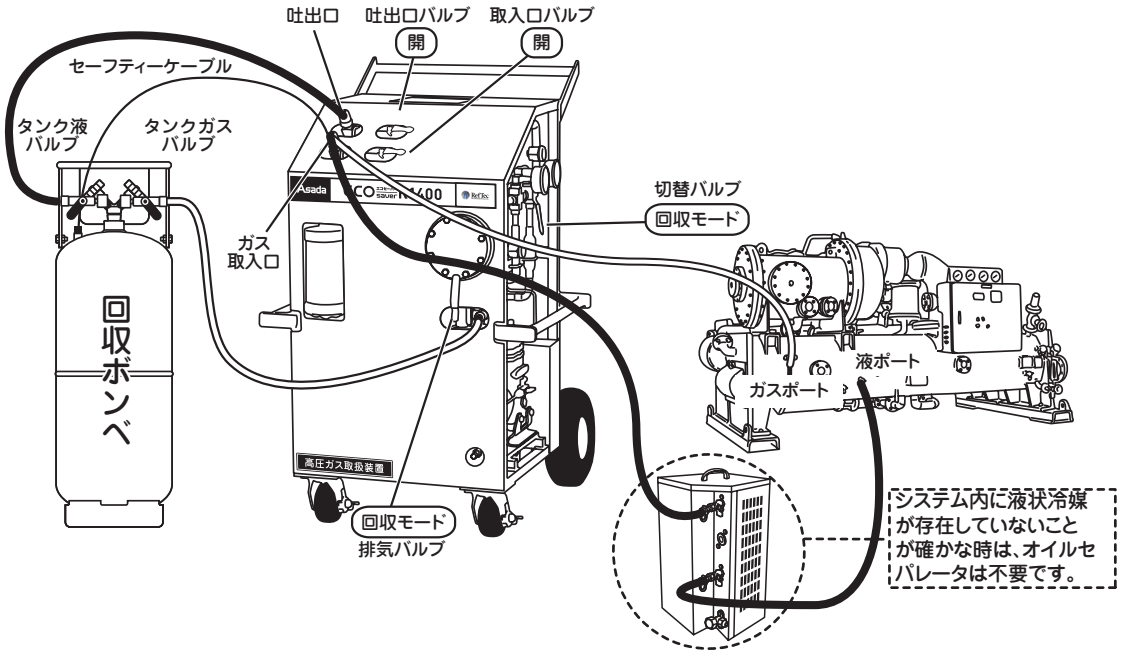


ガス回収方法

1）ホース、コード類の接続

- この回収方法は、ガス状の冷媒を回収する方法です。回収は、必ずガス状の冷媒を回収します。液状冷媒を回収すると、コンプレッサが破損する恐れがあります。
- 吐出圧力が上がり過ぎない様に予め回収ボンベ内に液状フロンを半分程度、充填しておいた状態から、ガス回収を始めてください。
- 回収目的や、回収装置の状況によって作業手順が異なりますので、右のチェックシートに従って作業を行ってください。





① ホースを上図のように【接続】

※ ボンベにフロートスイッチがついていない一般の回収ボンベを使用する場合は、必ず過充填防止装置付デジタルスケールを使用して回収してください。

② セーフティーケーブルをボンベか過充填防止装置付デジタルスケールの接続コネクタに【接続】

※ セーフティーケーブルを接続しないと、回収装置は始動しません。

③ このガス回収では、システムの取入口からの液状冷媒の流入を防止するため、システム内に液状冷媒が残っていないことを、必ず確認してください。

※ システムの液側アクセスポートから、液状の冷媒が流入する恐れのある場合は、絶対に回収装置のシステム液ポートバルブを開けないでください。

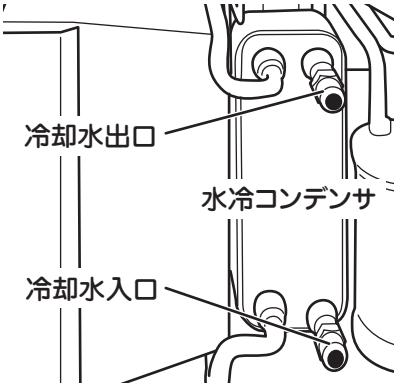
※ システム内の液状冷媒が全てガス状になったことを確認してから、回収装置のシステム液ポートバルブを開けるようにしてください。

※ システムから冷凍機油や液状冷媒が出てくる可能性がある場合には、図のようにオイルセパレータを設置してから回収を行ってください。

エコセーバー R1400

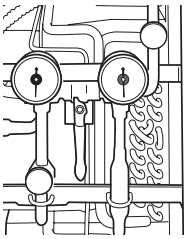
● エコセーバー R1400 には、大型の空冷コンデンサと大型の空冷ファンが搭載されていますが、十分な冷却ができない可能性がある場合には、水冷コンデンサを使用して冷却してください。
● 気温が高い場合は、水冷コンデンサを使用することによって、ボンベ内の温度上昇を防止することができます。

※ 冷却水入口と出口のねじ規格は以下を採用しています。
3/4"GHT おねじ（アメリカのガーデンホースねじ規格）
※ ホースニップルの外径は、φ 20mm



2）回収作業

① 回収するシステムの電源スイッチを【OFF】
② 必要に応じてコンプレッサオイル、フィルターコアを【交換】（P34、P35 参照）
③ 必要に応じて回収装置およびホース内の【排気】（P19 参照）
④ バルブを右図のように【設定】
⑤ オイルリターンバルブを【開】
⑥ システムの低圧側のサービスポートを【開】
※ システム内の冷媒がガス状の場合には、高圧側のサービスポートも【開】
⑥ ボンベの液側のバルブを【開】
⑦ 回収装置の各ポートのバルブを【開】
⑧ 低圧カット ON-OFF スイッチを【ON】
⑨ 電源スイッチを【ON】



ガス回収のスタート

※ 回収中、ボンベが満液になると満液ランプが点灯して回収装置が自動停止するため、ボンベを交換します。（P28 参照）
※ ガス回収中、ボンベの温度が上昇する場合があります。この場合には、ボンベを交換するか後述のサブクール作業を行う必要があります。（P27 参照）
※ 水冷コンデンサを使用して、ボンベ内の温度を上げないように回収作業を行うと、効率よい回収作業ができます。
※ 回収中、吸引圧力が大気圧（0MPa）付近になった場合、オイルリターンバルブを閉じることにより、回収速度を上げることもできます。（コンプレッサオイルの量には注意してください。不足した場合、破損につながる恐れがあります。）
⑪ ガス状冷媒がシステムからなくなったら、回収装置は自動で停止します。（停止圧力は－ 0.04MPa）
⑫ そのまま、10 分以上放置し、被回収システムのゲージの圧力上昇を【確認】
⑬ システム内の圧力が－ 0.01MPa 未満であれば【回収完了】
⑭ システム内の圧力が－ 0.01MPa 以上であれば、低圧カット ON-OFF を【OFF】にして、再度回収を実施してください。（回収装置は自動的に再始動）

フロン回収破壊法で、フロン充填量 2kg 以上のシステムからの回収は、－ 0.01MPa 以下まで回収することが義務付けられています。

回収終了について・・・

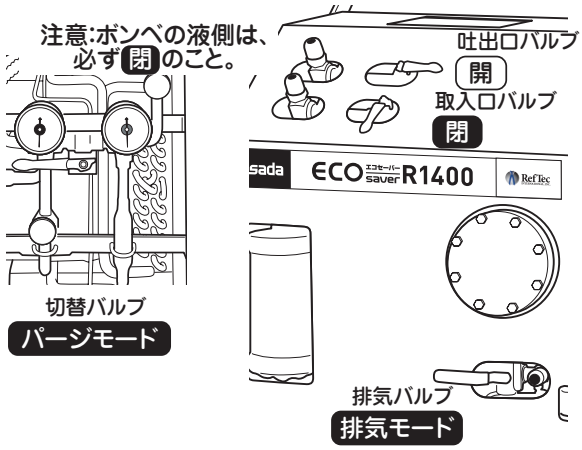
一旦、回収終了後 5 ～ 15 分そのまま放置して、冷凍機油に溶け込んだフロンの蒸発を待ってください。
所定の圧力）（下記表）より圧力が上昇した場合は、再度回収を実施してください。

フロン類の回収に関する基準（第一種特定製品の回収完了時圧力）

フロン類の圧力区分	主なフロン	フロン類の充填量	所定の圧力 ゲージ圧・(絶対圧)
高圧ガス 常用の温度での圧力が 0.3MPa 以上 2MPa 未満	R12,R22,R134a, R404A,R407C, R448A,R449A, R1324yf,R1234ze	2 kg 未満	0.0 MPa (0.1 MPa)
		2 kg 以上	-0.01 MPa (0.09 MPa)

3）ガス回収後のパージ作業（回収装置内にフロンを残す場合）

- 次回に同じ種類の冷媒をガス回収する場合は、回収装置内の冷媒を完全にパージする必要はありません。
- 長時間使用しない場合や、次にどのような回収を行うが不明の場合、冷媒が混合してはいけない場合には、「P25 回収後のパージ作業（完全にパージする場合）の方法」で回収装置内の冷媒を完全にパージしてください。



① システムの両ポートとボンベの液側ポートが閉じられていることを【確認】
※ ボンベの液ポートが開いていると、回収装置内に液状冷媒が流れて、コンプレッサが破損する恐れがあります。
② ボンベのガスバルブを【開】
③ バルブを右図のように【設定】
※ 回収装置が自動停止していた場合は、排気バルブを動かすと同時に、再起動します。
④ 低圧カット ON-OFF スイッチを【OFF】
吸引圧力ゲージの圧力値が真空域になるまで続けます。
⑤ ボンベのガスバルブを【閉】
⑥ 回収装置の電源スイッチを【OFF】
⑦ 回収装置の切替バルブと排気バルブを【回収モード】
⑧ 回収装置の吐出側バルブを【閉】
⑨ ホースを全て【外す】
※ このとき、回収装置の排気口とボンベのガスバルブをつないでいたホース内には、冷媒が残っていますので、慎重に取り外してください。
⑩ 回収装置内には、まだ冷媒が残っていますので、バルブを閉じたまま保管します。

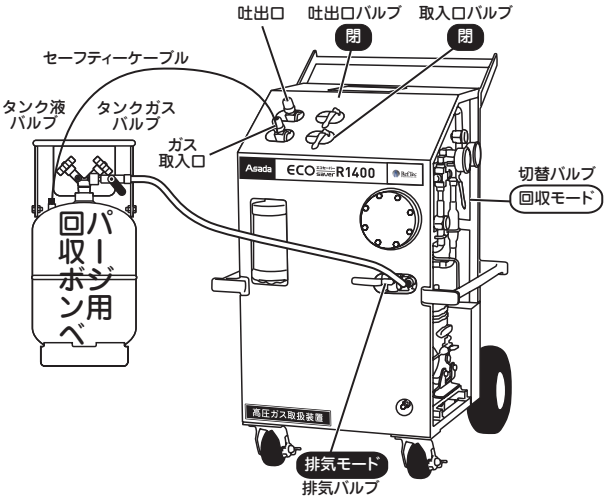
⚠ 注 意

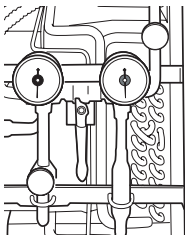
◆ ホースを外す際は、フロンの噴出に注意してください。
◆ バルブを開ける際は、圧縮されたフロンに注意してください。

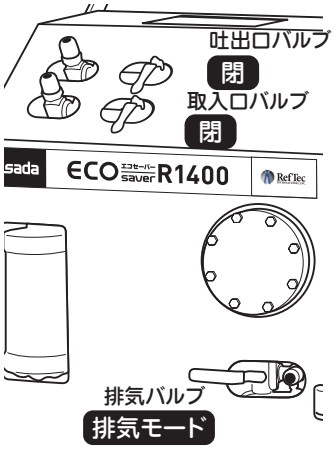
4）回収後のパージ作業（完全にパージする場合）

- 次回に同じ種類の冷媒を回収する場合は、回収装置内の冷媒を完全にパージする必要はありません。
- 長時間使用しない場合や、次にどのような回収を行うが不明の場合、冷媒が混合してはいけない場合には、ガス回収後のパージ作業を行った後、さらにこのパージ作業を行って、回収装置内の冷媒を完全にパージさせてください。
- 完全にパージさせた後は、コンプレッサおよび、オイルセパレータ内の冷凍機油を交換する必要があります。

① 「P24 ガス回収後のパージ作業（回収装置内に冷媒を残す方法）」を実施してください。
② 回収装置の排気ポートとパージ用ボンベのガス側バルブに異径アダプタを【接続】
③ 回収装置の排気ポートと真空引きしたパージ用ボンベ（24L 以上の容量のボンベ）のガスバルブを 1/4" バルブ付チャージングホースで【接続】
③ 各種バルブを右図のように【設定】
④ ボンベのバルブを【開】
⑤ ホース先端のボールバルブを【開】
⑥ 1～2分程度そのまま放置後、ボンベのガスバルブを【閉】
⑦ バルブを【回収モード】にしてから、全てのホースを【外す】
⑧ 全てのバルブを【閉】
ポートにキャップを付けた状態で保管します。
※ ポートを開けた状態で保管すると、空気中の水分によって、コンプレッサオイルが劣化します。
⑨ 異種冷媒を再生目的で回収する場合には、回収装置内の残留冷媒を完全にパージ後、回収装置内の真空引きを行ってください。







⚠ 注 意

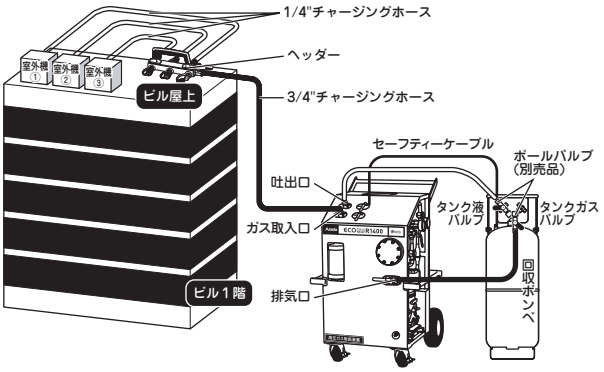
- 保管する場合には、必ず全てのバルブを閉じバルブを回収モードに変更して保管してください。
- 長時間使用しない場合は、コンプレッサオイルの劣化を極力防止するため、回収装置内を真空引きした状態で保管することをお勧めします。

R1400 を使用した大量回収方法

1）遠距離の回収作業

● この回収方法は、大量のガス回収が可能なエコセーバー R1400 を移動させずに、回収する方法です。

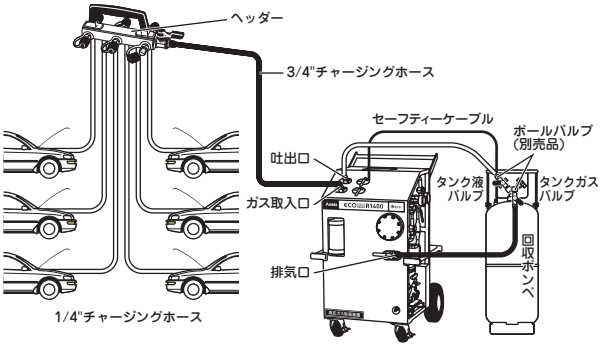
・ R1400 は、大型の回収装置です。したがって、この回収装置を回収現場まで持ち歩いて回収するのは大変困難です。
・ 右図は、R1400 を一階に設置し、長い 3/4" ホースで遠距離（屋上等）まで延長して、ヘッダー等を使用して一度に回収する方法です。



2）複数台の回収作業

● この回収方法は、少量の冷媒が使用されている機器から、一度に大量のガス回収を行う回収方法です。

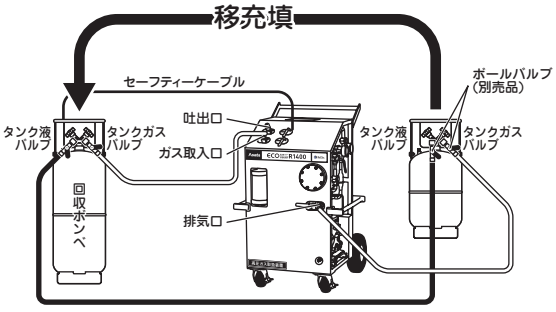
・ 右図は、R1400 を一個所に固定して設置し、長い 3/4" ホースで遠距離まで延長し、ヘッダー等を使用して複数台のシステムから一度に回収する方法です。
・ 大量の冷蔵庫や自動販売機 , カーエアコン等からの回収に適しています。特にこれらのシステムからの回収では、ガス回収が主流ですので、R1400 の早いガス回収速度が有効になります。



3）移充填作業

● この回収方法は、回収済みの小型ボンベから大型ボンベへ早く移充填させる方法です。

・ 右図は、回収済みの 12L ボンベや 24L ボンベを 120L ボンベへ移充填する方法で、R1400 を使用すれば、液冷媒は 25 kg/min の回収速度でプッュプル移充填が可能なため、多量のボンベも短い時間で移 充填を行うことができます。
・ また、2.7kg/min のガス回収速度のため、プッシュプル回収後のガス回収にも大きな効果があります。



⚠ 注 意

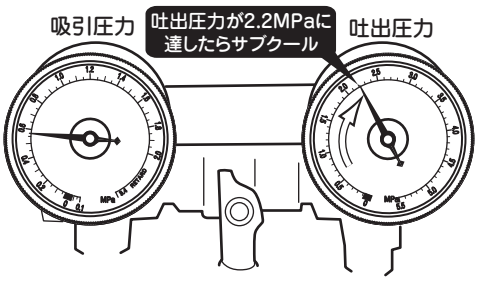
◆ **ボンベからボンベへの移充填を行うためには、高圧ガス保安法による、第二種高圧ガスの製造の許可が必要です。**

ボンベの冷却（サブクール）

- 次のような状況下では、回収能力が大きく阻害されることがあります。
  a）周辺温度が高い。
  b）ボンベが満液に近い。
  c）真空引きしないボンベを使用した。
  d）ボンベ内に空気が存在する。
  e）他の原因でボンベの圧力が高すぎる。
  f）冷却コンデンサを使用していない。
- このような場合は、通常ボンベを氷水等で冷却させる方法が取られますが、以下の方法でボンベ内のフロンを直接冷却（サブクール）させることができます。

① 回収中、吐出圧力ゲージの指示値が、以下の指示値以上になったら、サブクールを実施します。また、水冷コンデンサを使用していない場合には、水冷コンデンサに冷却水を通します。

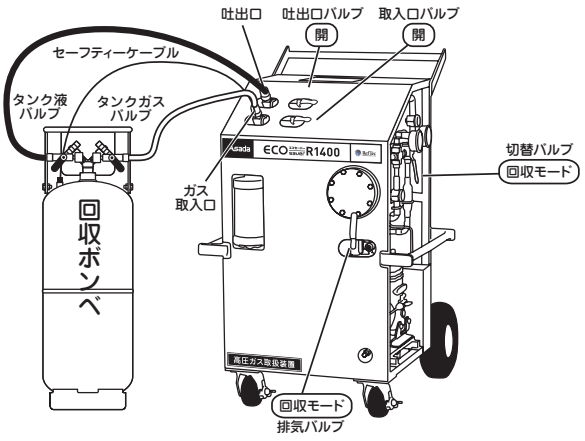
※ 2.2MP に達したら（下図左）



② 右図のように、ホースを接続しなおします。
③ 水冷コンデンサに冷却水を通してください。
④ 各種のバルブを右図のように【設定】
⑤ ボンベの液バルブを【開】
⑥ 電源スイッチを【ON】
⑦ ボンベのガスバルブを【開】
⑧ この状態で数分間～十数分間サブクールし続けます。

※ 1.9MPa まで下がったら

⑨ ボンベのガスバルブを【閉】
⑩ 回収装置が自動停止するか、吸引圧力が真空域になったらしたら、ただちにボンベの液バルブを【閉】
⑪ 回収装置とボンベ・ホース類全てのバルブを【閉】
⑫ ホースやバルブを元通りに直して、回収作業を再開させます。



回収中停止した場合

1）満液で停止した場合

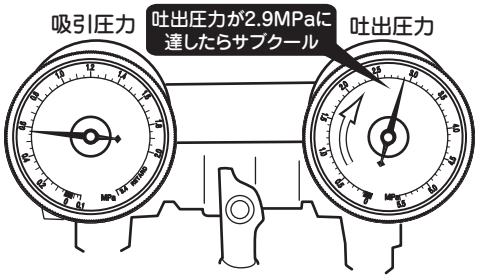
● 満液ランプが点灯して停止した場合は、ボンベが満液になっていますので、ボンベの交換が必要です。

① ボンベの液側とガス側のバルブを【閉】
② ホース先端のボールバルブを【閉】
③ セーフティーケーブルをボンベから【外す】
④ 真空引きした別のボンベに外したホース（ボールバルブ）を【接続】
⑤ ボンベの液側とガス側のバルブを【開】
⑥ ホース先端のボールバルブを【開】
⑦ ボンベにセーフティーケーブルを【接続】
⑧ 自動で回収作業が再開します。

2）高圧警告で停止した場合

● コンプレッサの吐出圧力（ボンベ内の圧力）が 2.9MPa 以上になると、安全のため回収装置が停止します。

① 電源スイッチを【OFF】
② 回収装置のバルブやボンベのバルブが閉じられていないか【確認】
閉じられていれば開けてください。
③ ボンベ内の圧力が高い場合は、ボンベを冷却させるか別のボンベと交換してください。
④ 回収装置の吐出圧力ゲージの指示値が低くなったことを【確認】
電源スイッチを【ON】
回収を再開させてください。



3）電源ブレーカもしくは、モータブレーカが作動して停止した場合

① 電源スイッチを【OFF】
② 電源ブレーカやモータブレーカは、一般的に過電流で作動しますので、その原因を取り除く必要があります。
また、延長コードを使用している場合は、使用を避けます。
③ 電源ブレーカもしくは、 モータブレーカを解除したのち、電源スイッチを【ON】
④ 回収を再開させてください。

4）異常な振動がした後に停止した場合

① 電源スイッチを【OFF】
② 液状冷媒や冷凍機油、冷却水等を誤って吸引していないか【確認】
③ コンプレッサオイルとオイルセパレーター内のオイルを排出して、オイル量やオイル質の異常有無を【確認】
④ 異常があれば、オイルを新しいオイルに交換した後、再度起動させてください。
⑤ 再び、異常な振動があれば、V ベルトの緩みを【確認】
⑥ V ベルトに異常がない場合は、ただちに使用を中止し最寄の弊社営業窓口までご連絡ください。

ボンベについて

所有者の表示

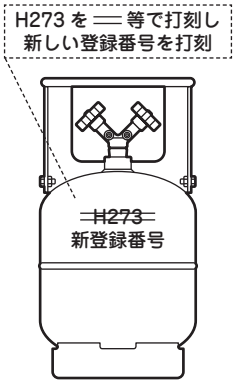
① 購入したボンベには、弊社の登録番号（H273）が刻印されていますが、容器所有者をご購入者に必ず変更してください。

② 法令により所有者は、氏名または、名称・住所・電話番号（以下「氏名等」という）を遅滞なく変更します。（高圧ガス保安法第 46 条・容器保安規則第 10 条 1 項三号による。）

③ 下記の方法にて表示してください。

- 登録番号（H273）を═ 等で打刻して抹消します。
- 容器の外面に容器所有者の氏名等を明示します。
- 高圧ガス保安協会に氏名等を登録し、高圧ガス保安協会から付与された記号及び番号（登録番号）を容器の厚肉部に打刻します。

※ なお、詳細は各地区の高圧ガス保安協会にお問合せください。（P25 参照）



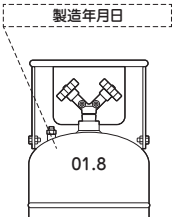
期　限

● 弊社容器は内容量が 500L 以下の溶接容器で、下記の期限毎に再検査が必要です。

平成 10 年 4 月 1 日以降に製造された容器。

- 20 年未満：5 年毎
- 20 年以上：2 年毎

（高圧ガス保安法第 48 号 1 項五号・容器保安規則第 24 条による。）

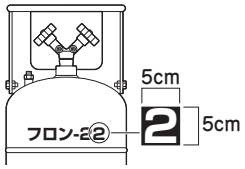


冷媒名の表示

● ボンベには冷媒名が表示してありません。

ご使用の際は、消えないように油性白色マーカーで必ず冷媒名を表示してください。

※ 冷媒名の表示なしでの使用は、違法となります。



貯　蔵

● 回収装置より取外したボンベの貯蔵は、法の適用を受けます。

1.5kg 以上 3t 未満の貯蔵は、法の基準（※）を守って貯蔵する。（届出・許可共に不要）

※法の基準

（a）空容器と実入り容器は、区別して置く。
　特定不活性ガスの容器は他のガスの容器と混在せず、区分して置く。
　容器置場の周囲 2 m以内においては火気の使用を禁じ、かつ、引火性または発火性の物を置かない。

（b）他のものを置かないこと。

（c）常に 40℃以下に保つこと。

（d）転倒防止（くさり）を付け、かつ粗暴な取扱いをしないこと。

（e）車に積載のまま置かないこと。

（f）標識（ガスの種類・量・責任者名：資格者の必要は無い）、警戒標（火気厳禁・立入禁止）を掲げること。

（g）特定不活性ガスが漏えいしても滞留しないこと。

（h）特定不活性ガスの容器置場には、その規模に応じ、適切な消火設備を適切な箇所に設けること。

（注） 他の高圧ガスと共同であれば、合算される。

（注） 特定不活性ガス…R32、R1234yf、R1234ze
【ただし、エコセーバー R1400 による特定不活性ガスの回収は、法の適用除外になりません。】

エコセーバー R1400

容器所有者登録申請等のお問合せ先

● 容器所有者登録申請等 フロン回収用ボンベに関しては、以下の高圧ガス保安協会および、各支部にお問合せください。

高圧ガス保安協会　機器検査事業部			
住　所		TEL	FAX
〒105-8447	東京都港区虎ノ門 4-3-13（ヒューリック神谷町ビル）	TEL 03-3436-6104	FAX 03-3436-0688

過充填の危険性

● フロンは、高圧ガスでありその使用方法や管理方法を誤ると重大な事故につながりますので、以下に回収作業に使用するボンベおよび、回収冷媒の注意事項等を記載しました。

本内容は、社団法人 日本冷凍空調工業会様が発行している『冷媒回収技術』より引用いたしました。

1）容器内のフロン温度と圧力の関係

フロンを容器に閉じ込めると、周囲の温度によってその圧力は変化します。

温度が高くなる ▶ 液の一部が蒸気 ▶ 圧力が上昇

この時、液面は蒸発での液面低下と比容積増加での液面上昇が同時に起こりバランスします。

温度が低くなる ▷ 蒸気が一部液化 ▷ 圧力が低下

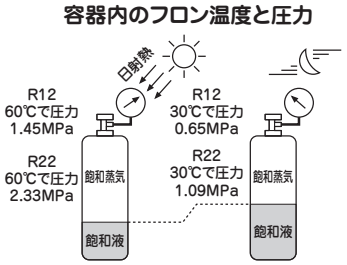
この時、液面は液化での液面上昇と比容積減少での液面低下が同時に起こりバランスします。

右のグラフは、フロンの種別ごとの圧力（飽和圧力）と温度（飽和温度）の関係を示しています。

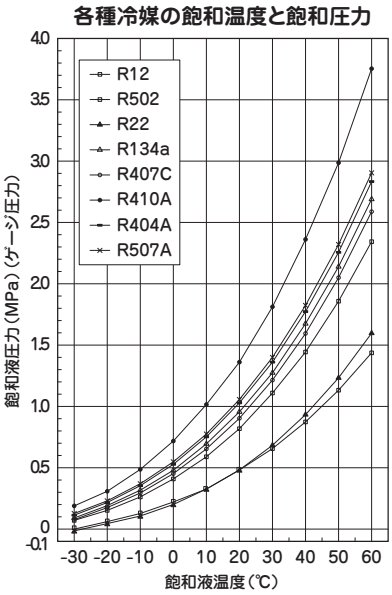
この飽和圧力・飽和温度の関係は容器内に液と蒸気がともに存在しているときの関係ですが、容器内はほとんどこの状態であり、現場で使用できる便利なグラフです。

容器内に液のみが充満して蒸気部分が全くなくなると、わずかな温度上昇でも圧力は極端に上昇します。

これを液封と称し絶対に避けなくてはいけない現象です。



※注意 この図では、説明のため60℃になっていますが、法で40℃以下となっています。



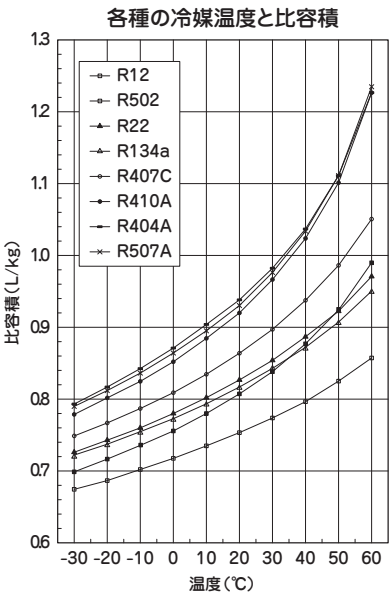
2）各種フロンの温度と比容積に関係

フロンの種類によって液の比容積が異なるとともに、温度上昇による液膨張度も大きく異なるため、容器に閉じ込めた冷媒の質量が同一でも容積が異なることになり、液封が起こりやすくなるため注意が必要です。

各種フロンの温度と液比容積の関係表とグラフを記載しましたが、HFC混合冷媒の比容積は CFC・HCFC と比べて大きく、かつ温度上昇による液膨張率が大きいため注意が必要です。

R410A・R404A・R507A は、R12・R134a・R22 と比べ比容積と膨張率が非常に大きいため注意してください。

また、回収時のオイルが容器内に残っている場合には、さらに質量に対する容積が大きくなり、液封が発生しやすくなるため注意が必要です。



4）充填が可能な回収容器内の冷媒温度

フロンの種類によって液の比容積が異なるとともに、温度上昇による液膨張度も大きく異なるため、可溶栓の溶解温度に達する飽和温度は各フロンよって大きく異なり、この圧力を超えて充填（回収）を行うと可溶栓が溶解し、フロンを全量大気に放出することとなります。

右表では、代表的なフロンで回収ボンベに充填（回収）可能な限界の圧力を記載しています。回収ボンベ内の圧力がこの圧力に達したら、満液になっていなくても新しいボンベと交換して、この表に圧力異常上昇しないようにしてください。

可溶栓溶解温度における飽和圧力(ゲージ圧)					
冷媒種	飽和圧力	限界圧力	冷媒種	飽和圧力	限界圧力
R12	1.4MPa	1.2MPa	R404A	2.8MPa	2.2MPa
R134a	1.6MPa	1.2MPa	R507A	2.9MPa	2.2MPa
R22	2.3MPa	2.2MPa	R410A	3.7MPa	2.9MPa
R407C	2.7MPa	2.2MPa	R32	3.8MPa	2.9MPa

【エコセーバー R1400 による R32 の回収は、法の適用除外になりません。】

3）ボンベに内封された液体の体積変化（R12・R410A の場合）

21L のフロートセンサー付回収用ボンベの充填量は、法により 90% 以下に制限されています。

R12 は、16℃で 25.3kg 充填でき、周囲温度が上昇した場合、52℃で満杯となり、52℃ではボンベの可溶栓は吹きませんから、その後は液封破裂となります。

特に、R410A の場合には、この傾向が顕著になり、さらに低い温度で液封が起こります。

R12 の場合は、52℃で液封に達し 58℃で液封破裂しますが、R410A ではさらに低い温度上昇で発生します。（16℃で 90% 充填した場合、36℃で液封に達し 42℃で液封破裂します。）

R12 や R22 などのフロン回収には、法の基準である 90% でも問題ありませんが、R410A などの冷媒では、液封の危険性があります。

したがって、充填率は 90% では不十分であり 85% 以下の充填率にすることが望まれます。

当社のフロート付ボンベやリミットスケールでは、これらの冷媒を回収しても液封が起こりにくい充填率になるように設定されています。

ただし、リミットスケールを使用して充填する場合は、フロンと一緒にオイル（冷凍機油）を回収すると 80% を充填しても液封になる可能性があります。

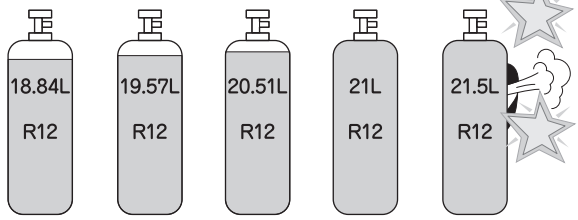
オイル（冷凍機油）が含まれると予想される場合には、充填率を低くするか、オイルセパレータ等で事前にオイル（冷凍機油）を取り除いて回収するようにしてください。

「ドカン」

「可溶栓が噴出する前に破裂 !!」

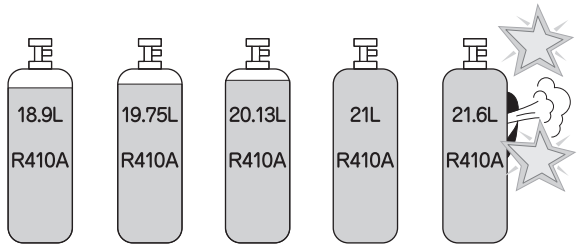
注 意 法では 40℃以下で取扱いすることになっています。

R12 液容積



温　度	16℃	30℃	45℃	52℃	58℃
圧　力	0.41MPa	0.64MPa	0.98MPa	1.17MPa	1.36MPa
液充填率	89.7%	93.2%	97.7%	100.0%	102.4%
冷媒質量	25.3kg	25.3kg	25.3kg	25.3kg	25.3kg
比体積（液）	0.7448 L/kg	0.7852 L/kg	0.8107 L/kg	0.8309 L/kg	0.8503 L/kg

R410A 液容積



温　度	16℃	26℃	30℃	36℃	42℃
圧　力	1.29MPa	1.69MPa	1.88MPa	2.19MPa	2.54MPa
液充填率	90.0%	94.0%	95.9%	100.0%	102.9%
冷媒質量	20.9kg	20.9kg	20.9kg	20.9kg	20.9kg
比体積（液）	0.9044 L/kg	0.9448 L/kg	0.9634 L/kg	1.005 L/kg	1.032 L/kg

保守・点検

回収作業前の点検事項

● 安全や機械故障防止のため、必ず実施してください。

① コンプレッサオイルの汚れや量を点検してください。
- P14 の「回収作業前の重要な点検項目」に従って、実施してください。
- オイルの補充・交換方法は P35 を参照してください。

② 再生目的で冷媒を回収する場合には、前に行った回収冷媒種類を確認してください。
- P14 の「回収作業前の重要な点検項目」に従って、実施してください。
- オイルの補充・交換方法は P35 を参照してください。

③ 過充填防止装置の確認
- P37 の「その他の点検作業」に記載している方法などで、回収ボンベおよび、過充填防止装置付デジタルスケールの過充填防止装置が、正常に作動し回収装置が自動停止することを必ず確認します。

※ 過充填防止装置が故障していると、ボンベ内が満液となり大変危険です。

④ フィルターコアの交換
- フィルタードライヤ内のフィルターコアは消耗品です。
- フィルターコアを使用せずガス回収を行うと、回収効率が著しく低下するとともに、汚染物質がコンプレッサ内に入ってオイルが劣化し、コンプレッサの寿命低下の原因となります。
- フィルターコアの交換の目安は、回収作業ごともしくは、100 kg の冷媒回収ごとを目処に交換するようにしてください。
  また、100kg に満たないときでも、回収中にフィルタードライヤ表面に霜が付着して回収速度が低下する場合には、ただちに交換するようにしてください。
- フィルターコアは、再生できませんので必ず新しいものと交換してください。

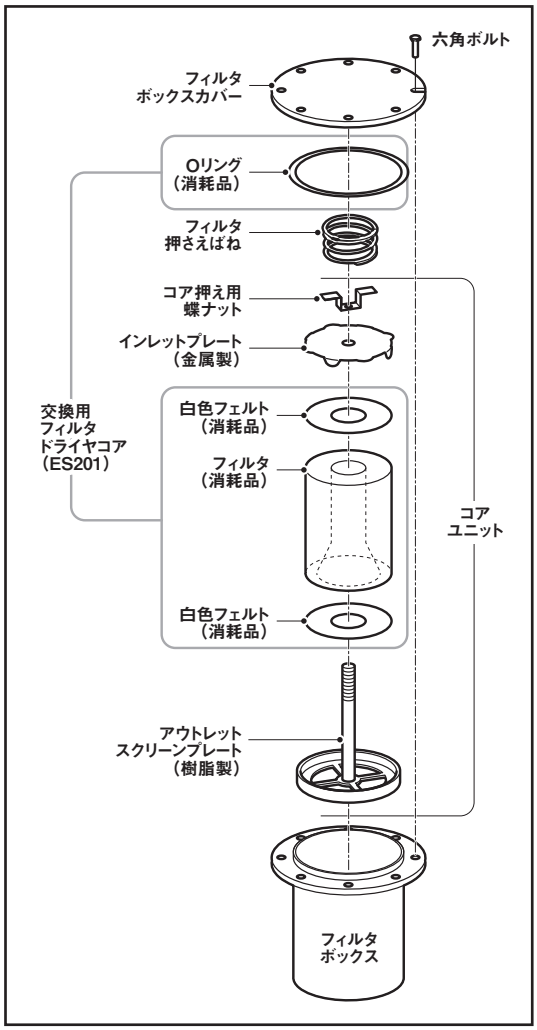
⑤ 3/4" チャージングホースのパッキンの交換
- チャージングホースのパッキンは消耗品です。
- チャージングホースのパッキンに傷や変形等がみられた場合は、新しいパッキンに交換してください。
  傷や変形等がついた状態で使用すると、接続箇所から冷媒が漏れる場合があります。

フィルターコアの交換

□ 定期的にフィルタの交換を実施してください。

★ フィルタは消耗品です。 再利用できませんので、原則的に回収作業ごと交換を行ってください。
★ 交換用フィルタは、ES201・R1400 用フィルタをご購入願います。
★ 古いフィルタを使用しすると、コンプレッサの故障の原因となります。

① フィルタボックスのカバーを取り外します。
※ 内部には、フィルタ押さえばねが入っていますので、六角ボルトは急に外さず、慎重に取り外してください。
② フィルタボックスからコアユニットを取り出し、蝶ナットを外して、フィルタを取り出します。
③ 必要に応じてスクリーンプレートのストレーナを清掃します。
④ 新しいフィルタを元のようにセットし、蝶ボルトで固定します。
⑤ 新しいフィルタといっしょに、交換用の O リングと白色フェルトが同梱されていますので、フィルタコアと同時に交換してください。
※ 補修用パッキンセットには、数種類の大きさのパッキンがありますが、このパッキンは使用しません。
⑥ フィルタボックス内の汚れは、ウエスで清掃します。
⑦ フィルタボックスの 1 箇所の切り欠き部の六角ボルトを組み込み、その他の六角ボルトをパッキンを挟まない様にして元のように組み立てます。
※ しっかりと六角ボルトを固定してください。

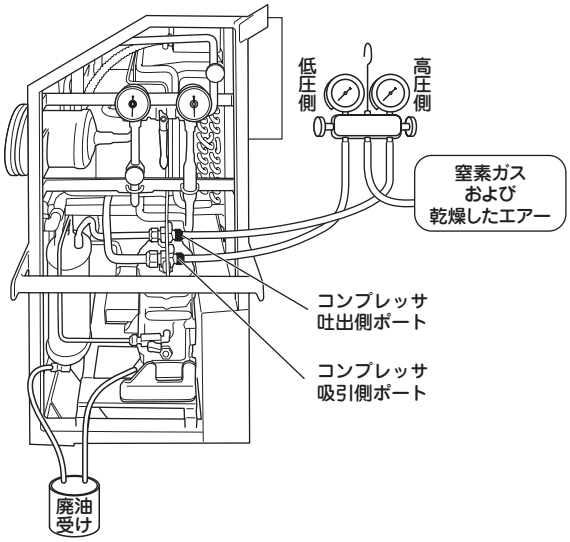


コンプレッサオイルの交換

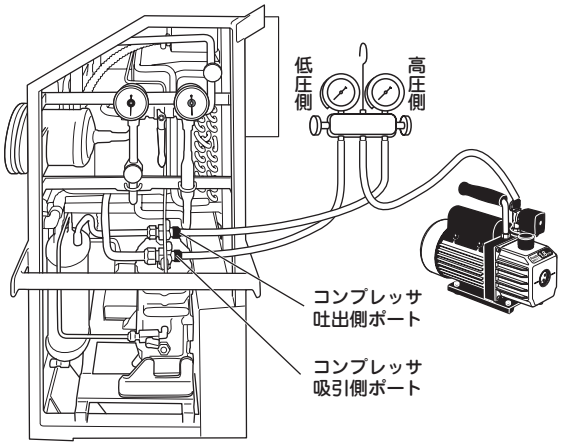
● P14 の「オイル点検」を実施して交換が必要と判断された場合や、以下のような場合には、新しい冷凍機油と交換を行ってください。
a）コンプレッサオイルが異常に少ない時。
b）コンプレッサオイルが汚れている時。
c）焼損したシステムから、汚染されたオイルを回収してしまった時。
d）異種のフロン回収を再生目的で行う時。
e）連続 10 時間回収作業もしくは、500kg のフロンをガス回収した時。
f）ポートを空けた状態で、長時間使用していなかった時。
g）誤って、液状冷媒や冷凍機油、冷却水を直接吸引してしまった時。

● オイルは、コンプレッサ内とオイルセパレータ内にそれぞれ決められた量を注入する必要がありますので、基本的は補充を行わず、交換を行い適正な量のオイルを充填するようにしてください。

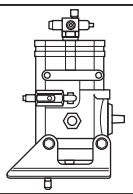
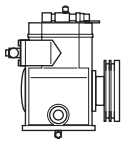
① 回収装置内に冷媒が残っていないことを【確認】
残っていれば残圧を抜いてください。
② 回収装置の取入口と吐出口のバルブを【閉】
③ 回収装置の排気バルブと切替バルブを【回収モード】
④ コンプレッサ上部の「コンプレッサ吸引側ポート」とマニホールドの低圧側をホースで【接続】
⑤ コンプレッサ上部の「コンプレッサ吐出側ポート」とマニホールドの高圧側をホースで【接続】
⑥ マニホールドのセンターポートに窒素ガスおよびエアーコンプレッサ（乾燥したエアー）を【接続】
⑦ 回収装置前面下部背面の「オイルセパレータドレンポート」とコンプレッサ下部の「コンプレッサドレンポート」にムシ押し付きのホースを【接続】
廃油受けに入れてください。
⑧ マニホールドの低圧側と高圧側のバルブを【開】
0.5 ～ 1.0MPa の圧力をコンプレッサ内に加えてください。
⑨ コンプレッサ上部のアクセスバルブを【開】
⑩ 全てのオイルが吐出されたら、「オイルセパレータドレンポート」と「コンプレッサドレンポート」に接続したホースを【外す】

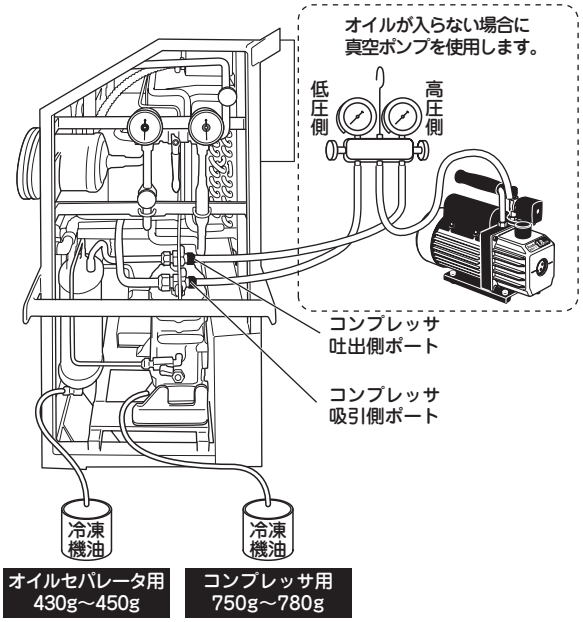


⑪ マニホールドのセンターポートに真空ポンプをつなぎ、完全に真空引きしてください。
⑫ コンプレッサ上部のアクセスポートバルブを【閉】
⑬ マニホールドやホースを全て【外す】



⑭ 回収装置前面下部の「オイルセパレータドレンポート」と コンプレッサ下部の「コンプレッサドレンポート」にムシ押し付きのホース（バルブ付ホースをお勧めします）を【接続】
新しい冷凍機油を補充してください。

冷凍機油の補充量		
オイルセパレータ	430 ～ 450g	ー
旧型コンプレッサ	450 ～ 470g	
新型コンプレッサ	750 ～ 780g	



⑮ もし、新しいオイルが吸引しない場合には、真空ポンプでコンプレッサ内を吸引すると入りやすくなります。
⑯ コンプレッサ側面のサイトグラスから冷凍機油の油面が見えることを確認し、見えないときはサイトグラスから見えるまで、コンプレッサに入れる冷凍機油を追加してください。

- 「Y77930 オイルポンプ DX」を使用すれば、真空引きしなくても簡単にポンプ内および、オイルセパレータ内にオイルを充填することができますので、ぜひご用意ください。
- オイルポンプ DX を使用する場合は、廃油完了後そのまま新しい冷凍機油を給油させることができます。

※ コンプレッサオイルは回収するフロンに使用されているオイルと同種類のオイルにコンプレッサおよびオイルセパレータ内のオイルを変更して使用してください。
※ 鉱物油 ⇔ 合成油の交換を完全に行うためには、1 回目の冷凍機油の交換後、数分間回収装置を空運転させ、その後ふたたび冷凍機油を新しいものと交換します。この作業を行うことによって、完全な冷凍機油の交換作業が可能です。

⑰ 取り出した冷凍機油（廃油）は、所定の廃棄処理を行ってください。

その他の点検作業

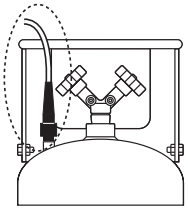
● 以下の個所を定期的に点検・清掃し、敵時修正まは交換を行ってください。

1）各種コード類の確認

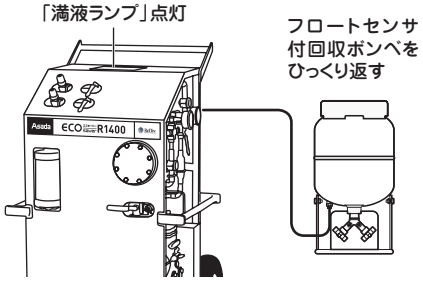
① 差込プラグ、コードに損傷がないか【確認】
② セーフティーケーブルをボンベのフロートセンサ端子 に【接続】
③ 電源スイッチを【ON】で始動することを【確認】
④ セーフティーケーブルを外し、停止することを【確認】

2）過充填防止機構（フロートセンサ付回収ボンベ）の確認

① セーフティーケーブルをボンベのフロートセンサ端子 に【接続】

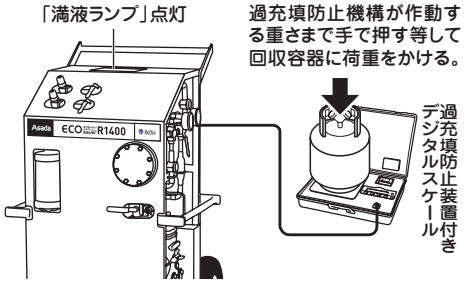


② 電源スイッチを【ON】で始動することを【確認】
③ ボンベを引っくり返し、停止することを【確認】



3）過充填防止機構（一般回収ボンベ）の確認

① セーフティーケーブルをボンベの過充填防止装置付デジタルスケールのセンサ端子に【接続】
② スタートボタンを押して始動することを【確認】
③ ボンベを手で押して過充填防止機構が作動する重さにし、停止することを【確認】



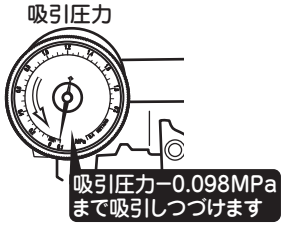
4）フィルタードライヤの交換

① フィルタードライヤの中のフィルターコアは消耗品ですので、回収作業ごともしくは、冷媒を 100kg 回収 した時点を目安に交換。
※ フィルターコアは、使い捨て部品ですので再生できません。
必ず新しいものと交換してください。

● これ以降の点検作業時は、回収装置内にフロンが存在しない状態で実施します。

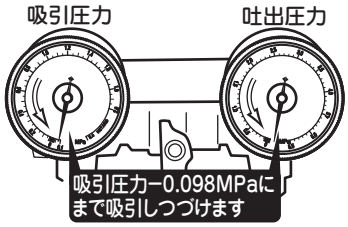
5）回収機能の確認

① 切替バルブ・排気バルブを【回収モード】位置にセット。
② ガス取入口ポートから吸引して吐出口ポートから 吐出することを【確認】
③ ガス取入口バルブを【閉】
吸引側ゲージが真空 になることを【確認】



6）排気機能の確認

① 切替バルブを【排気モード】
排気バルブを【回収モード】位置にセット。
② ガス取入口ポートから吸引して排気口ポートから吐出することを【確認】
その際、吐出口ポートから吐出していないことを【確認】
③ ガス取入口バルブを【閉】
吸引側ゲージが真空になることを【確認】
④ 排気バルブを【排気モード】
吸引側ゲージと吐出側ゲージ共に真空になることを【確認】

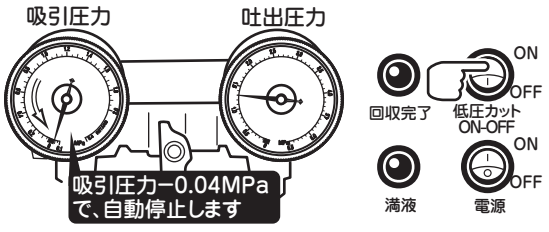


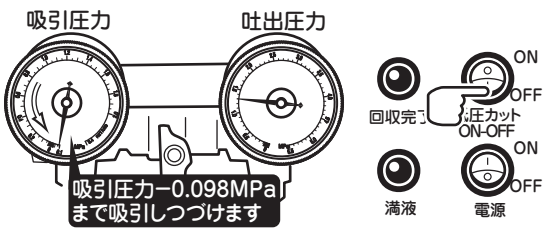
7）高圧警告の確認

① 高圧スイッチ作動による高圧警告の動作がおかしいと感じた場合は、直ちに使用を中止し最寄りの弊社営業窓口まで一報・修理の依頼を行ってください。
※ エコセーバー R1400 を使用しての高圧スイッチの動作確認は行わないでください。

8）低圧カットの確認

① 切替バルブと排気バルブを【回収モード】
ガス取入口バルブを【開】
吐出口バルブを【開】にセット。
② 電源スイッチを【ON】
③ 低圧カット ON-OFF スイッチを【ON】
④ ガス取入口バルブを【閉】にすると、真空域になり、回収完了ランプが点灯して、回収装置が自動で停止することを【確認】
⑤ ガス取入口バルブを【開】にすると、回収装置が再始動し、再びガス取入口バルブを【閉】にすると、真空域になり、回収完了ランプが点灯して、回収装置が自動で停止することを【確認】
⑥ この状態で、低圧カットスイッチを【OFF】にし、回収装置が再起動することを【確認】





エコセーバー R1400

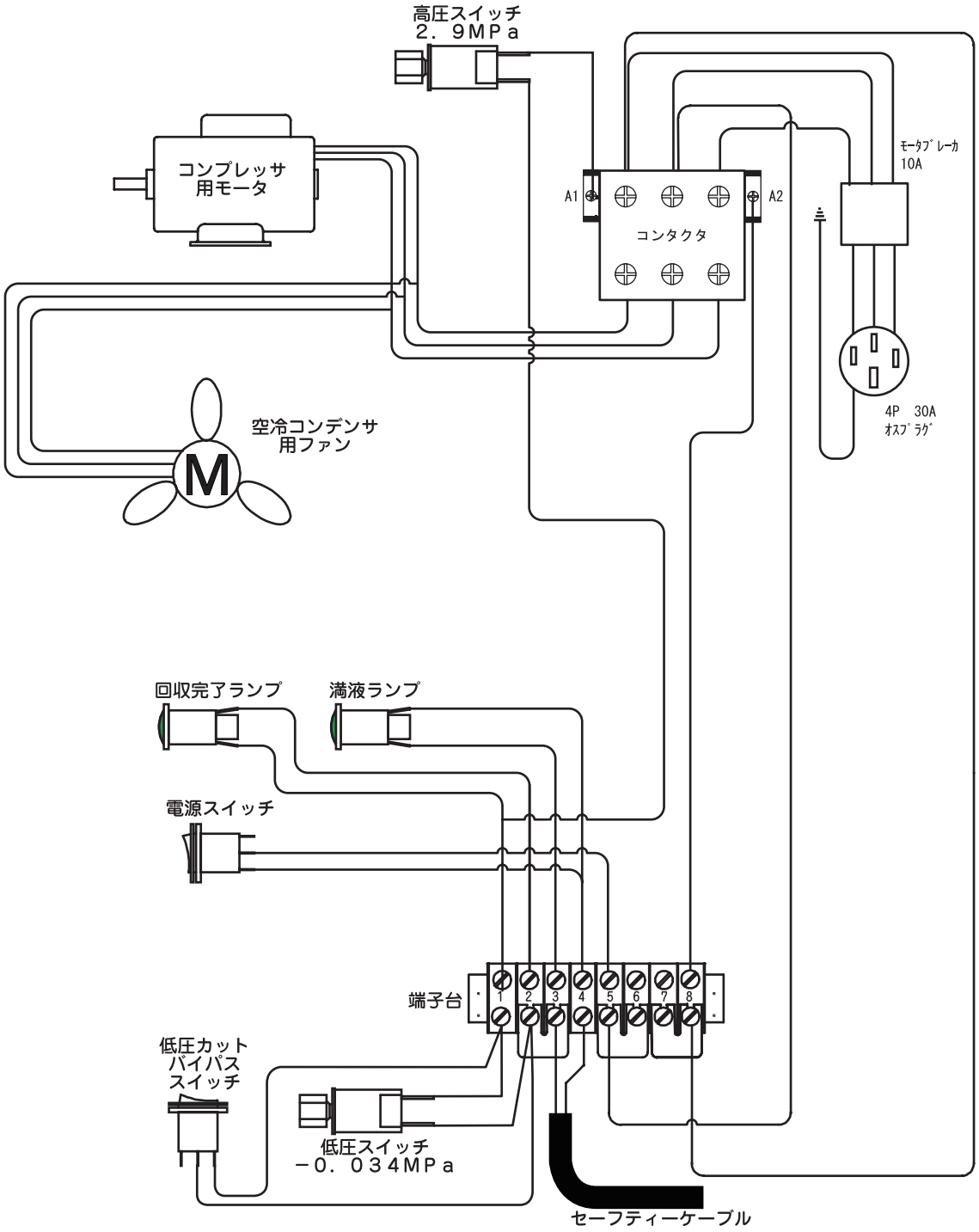
修理・サービスを依頼される前に

現 象	原 因	対 策
起動しない	①三相 AC200V 電源でない	①電源を確認する
	②電圧が低い	②電源電圧を確認する延長コードを使用しない
	③電源コードの未接続	③電源コードの確認・接続
	④セーフティーケーブルの未接続	④セーフティーケーブルの接続 過充填防止装置付デジタルスケールの ス タートボタンを押す
	⑤低圧スイッチが作動	⑤低圧カット ON-OFF スイッチを OFF 吸引側ラインの各バルブを開ける 回収が完了している システムの液冷媒温度が低く蒸発しない 吸引側ラインの抵抗をなくす 吸引側ラインのホース径を 3/4 にする
	⑥高圧スイッチが作動	⑥ボンベの温度を下げる 吐出側ラインの各バルブを開ける ボンベを交換する 吐出側ラインの抵抗をなくす 吐出側ラインのホース径を 3/4 にする
	⑦ボンベが満液	⑦ボンベを交換する
	⑧ボンベのフロートセンサの故障	⑧ボンベを交換し、修理する
	⑨モータサーマルが作動中	⑨モータ温度が下がるまでしばらく待つ
	⑩低圧スイッチの故障	⑩低圧スイッチを修理する
	⑪高圧スイッチの故障	⑪高圧スイッチを修理する
	⑫コンプレッサの故障	⑫コンプレッサを修理する
	⑬配線の断線	⑬配線の確認・修理する
	⑭モータの故障	⑭モータを修理する
	⑮モータブレーカが作動	⑮原因を取り除いてブレーカを ON にする
起動後すぐ停止する （回収完了ランプが点灯）	【この現象は低圧カット ON-OFF スイッチが ON のときに発生するため、OFF にすれば停止しない】	
	①吸引側ラインのバルブが閉	①吸引側ラインのバルブを開ける
	②吸引側ラインが細い	②吸引側ラインのホース径を 3/4 にする
	③吸引側ラインに抵抗がある	③吸引側ラインの抵抗をなくす
	④システム内に液冷媒が存在する	④液状冷媒を加熱等して蒸発させる
	⑤回収が完了している	⑤次の回収を行う
	⑥フィルタドライヤが閉塞・凍結	⑥フィルタドライヤを交換する
起動後すぐ停止する （満液ランプが点灯）	①ボンベが満液	①ボンベを交換する
	②フロートセンサの動作不良	②ボンベを交換し、修理する
	③過充填防止装置付デジタルスケール設定間違	③正しく設定し直す
	④セーフティーケーブルの断線	④セーフティーケーブル断線の確認修理

現 象	原 因	対 策
起動後すぐ停止する（ランプが全く点灯しない）	①吐出側ラインのバルブが閉	①吐出側ラインのバルブを開ける
	②吐出側ラインが細い	②吐出側ラインのホース径を 3/4 にする
	③吐出側ラインに抵抗がある	③吐出側ラインの抵抗をなくす
	④回収ボンベ内圧力が高い	④ボンベを冷却する ボンベを交換する
	⑤空気を吸引している	⑤吸引側ラインの各接続部を確認する
	⑥ファンが動いていない	⑥ファンを確認・修理する
	⑦コンデンサフィン詰まり・汚れ	⑦コンデンサフィンを洗浄・清掃する
回収速度が遅いまたは回収しない	①フィルタドライヤが閉塞・凍結	①フィルタドライヤコアを交換する
	②吸引吐出ラインのバルブが閉	②吸引吐出ラインのバルブを開ける
	③吸引吐出ラインが細い	③吸引吐出ラインのホース径を 3/4 にする
	④吸引吐出ラインに抵抗がある	④吸引吐出ラインの抵抗をなくす
	⑤システム内に液フロンが存在する	⑤液状冷媒を加熱等して蒸発させる
	⑥回収ボンベ内圧力が高い	⑥ボンベを冷却・交換する
	⑦回収ボンベ内に空気が存在	⑦ボンベを真空引きする
コンプレッサ異常音	①液状冷媒を吸引している	①ガス冷媒のみを回収する。
	②冷凍機油・冷却水を吸引している	②システムの接続ポートを確認する
	③オイルが少ないが入っていない	③オイルを補充・注入する
	④オイルが汚濁している	④オイルを交換する
	⑤コンプレッサが液圧縮	⑤液状冷媒が回収機に入らない様にする 冷凍機油が回収機に入らない様にする
	⑥ V ベルトのスリップ	⑥コンプレッサのロック。点検・修理 V ベルトをアジャスタボルトで増張りする V ベルトを交換する
ホース接続部から冷媒が漏洩する	①パッキンを使用していない。	パッキンを使用する。
	②パッキンが破損，傷，変形している。	新しいパッキンと交換する。

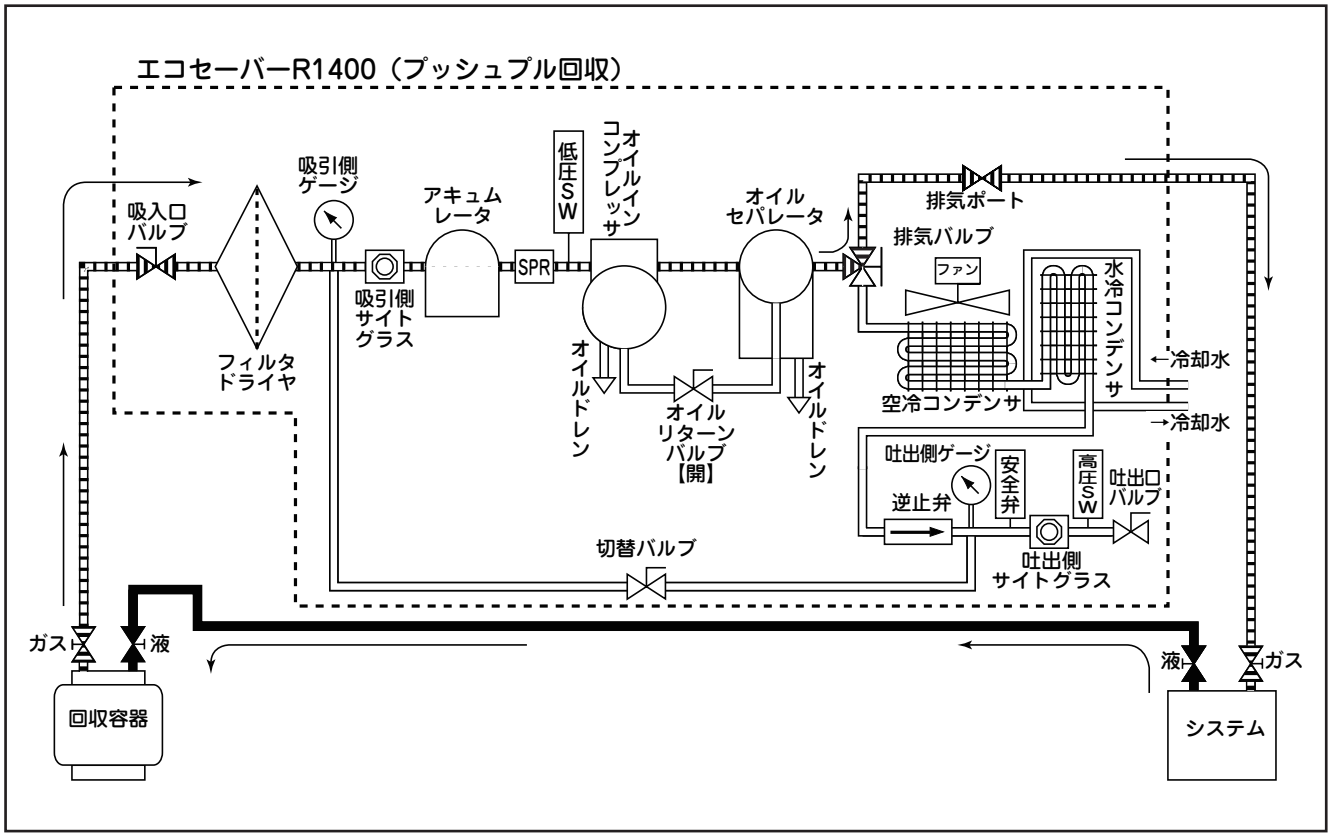
エコセーバー R1400

電気配線図

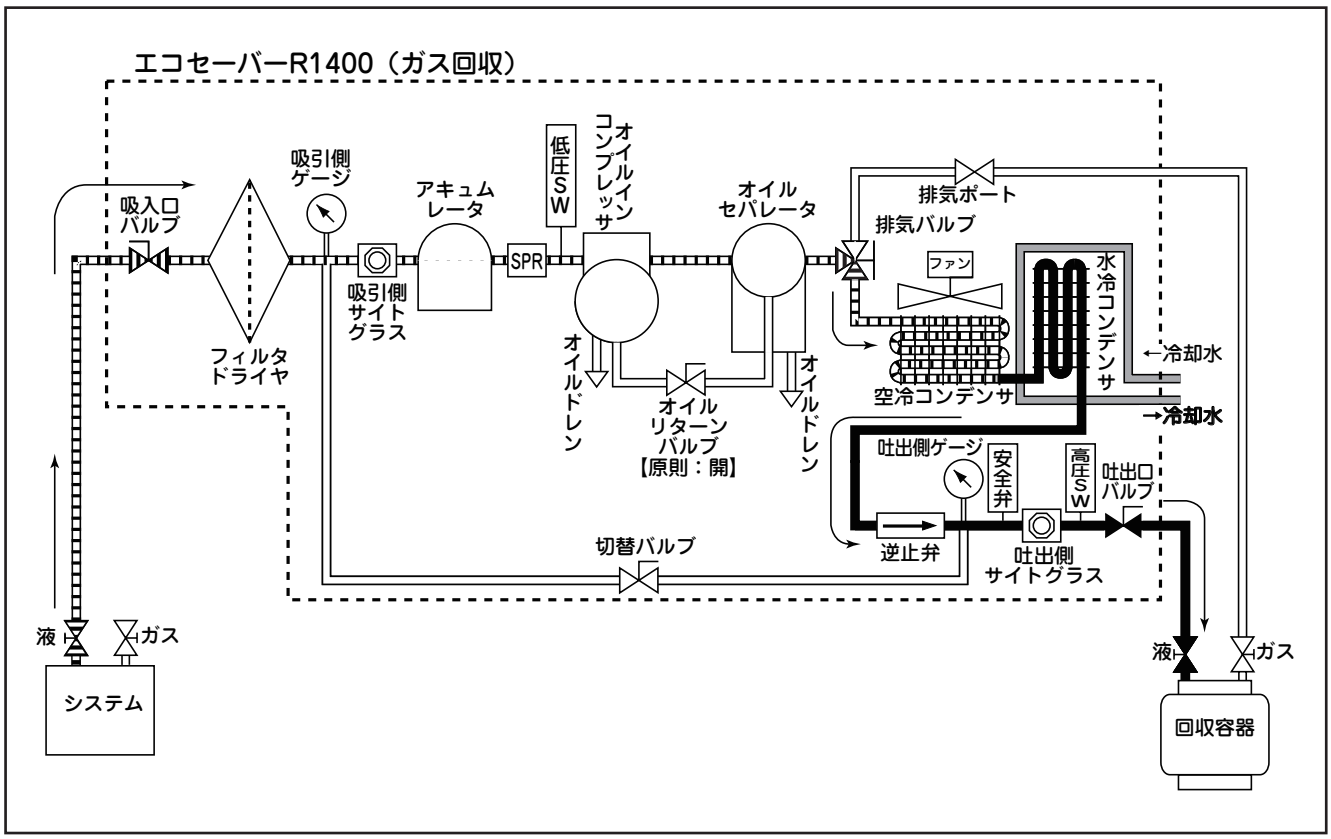


配管系統図

プッシュプル回収



ガス回収



●お客様メモ

後日のために記入しておいてください。
お問合せや部品のご用命の際にお役に立ちます。

製造番号　：
購入年月日:　　年　　月　　日
お買い求めの販売店

Asada アサダ株式会社

本　社／名古屋市北区上飯田西町3-60　TEL (052) 911-7165　E-mail : sales@asada.co.jp

製品の使用方法に関するお問合せは
0120-114510(イイシゴト)
(受付時間) 9:00-12:00／13:00-17:00(土・日・祝日は除く)

支　店／東京・名古屋・大阪
営業所／札幌・仙台・さいたま・横浜
広島・福岡

海外事業所
アサダ・タイランド社　(バンコク)
台湾浅田股份有限公司　(台　北)
アサダ・ベトナム社　(ホーチミン)
上海浅田進出口有限公司　(上　海)
アサダ USA　(オレゴン州・ユージン)

工　場
犬山工場　(愛知県・犬山市)
アサダ第一精工株式会社　(松 阪 市)
アサダ・マシナリー社　(バンコク)

www.asada.co.jp

Ver.18　コード No. IM0022